

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題 1

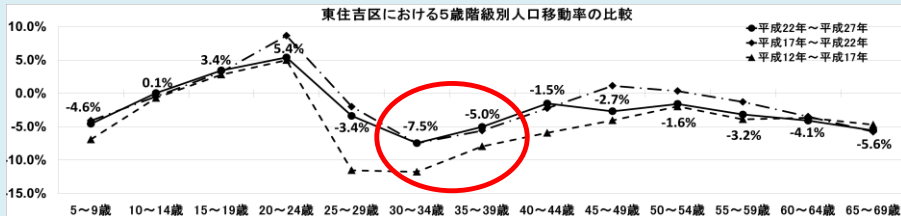
【子育て層が住みたい、住み続けたいと思うまちづくりの推進】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

- ・子育て層が安心して子育てができるように、子育て等に関する知りたい情報を環境を整え、子育ての関係機関等と連携を深め、育ちやすい、育てやすいまちとして、東住吉区に住みたい、住み続けたい子育て層が増える。
- ・地域から孤立するなど子育てのしづらさを感じている養護者を減らし、前向きな子育てができる養護者を増やす。養護者が安心して楽しく子育てができ、子どもたちも健康ですくすくと育てられる東住吉区をめざす。あわせて虐待に至る事例を減少させ、虐待を起さない環境づくりを進める。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

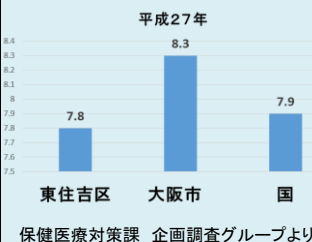
- ・子育て層の人口（25歳～44歳）※《出典：H22.H27年国勢調査》※総務省の統計を参考に、子育て層を25歳～44歳と想定。
 大阪市 H22 795,617人→H27 766,580人（増減数 ▲28,587人、3.6%の減）
 東住吉区 H22 34,397人→H27 30,351人（増減数 ▲4,046人、11.8%の減）
- ・以前より改善されつつあるが、特に30～39歳の年齢層が依然として、東住吉区から他地域へ移動している傾向がある。



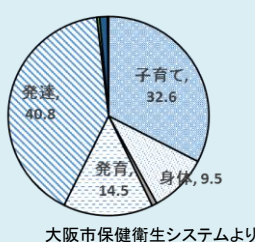
- ・東住吉区内での住みやすさ(H28第1回区民アンケート)(25～44歳の率、()内は全体の率)
 とても住みやすい 25.2% (30.2%) まあまあ住みやすい 61.7% (58.6%) 否定的評価 12.1% (7.2%)

- ・乳幼児健診での追跡要因の3割は、「子育て・養育」の問題があり、その内訳は、子どもの問題行動や養護者自身の問題により子育てのしづらさを訴える「育児不安」、養護者の「養育精神」53.4%、養護者からの「虐待・その疑い」「養育態度(ネグレクト疑い含)」18.9%とで、「子育て・養育」問題の約7割を占めており、子育てのしづらさから子育てが楽しくないと感じる養護者が少なくない。

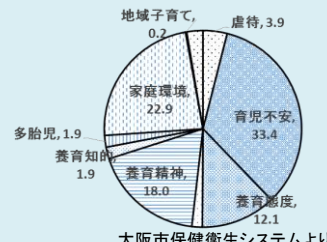
●出生率の比較(H27)



●乳幼児健診での追跡要因(H28)



●追跡要因「子育て」の内訳(H28)



要因分析（現状・データから導かれる分析結果）＜めざすべき将来像と現状に差が生じる要因＞

- ・東住吉区における子育て層の人口の減少率が市全体を大きく上回り、過去の統計だが30代の転出も依然として多く、区民アンケートによる住みやすさの評価にもその結果が現れていることから、子育て層にとって「住みたい、住み続けたいまち」として魅力を感じにくいことが要因の一つと考えられる。
- ・東住吉区では子育て層が安心して楽しく子育てできる環境をめざしているが、核家族化、子どもの問題行動、養護者自身の問題などにより子育てのしづらさを訴える養護者が多く、地域で孤立化する事例においては、児童虐待に発展する事例もある。背景には、若年出産・経済不安・成育歴等も考えられる。また、発達障がい(疑い)がある事例も多く、虐待に至る前に子育てのしづらさや発達障がい(疑い)がある親子が早期発見され、早期に療育が受け入れられる仕組みや支援してもらえる社会資源等の連携体制や整備が十分整っていないことが要因と考えられる。

課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞

- ・他区にはない区独自施策を展開し、積極的に対内外に情報発信することで、東住吉区が「子育て環境抜群」であることをPRする。
- ・子育て層にとって東住吉区が「住みたい、住み続けたいまち」になるための課題等を的確に把握し、対策を講じる必要がある。
- ・乳幼児の子どもを抱える子育て家庭や子育てに不安や負担を感じている人が孤立しないように、子育てのしづらさや発達障がい(疑い)がある親子を早期発見し、早期に療育が受け入れられる仕組みづくりを、地域の関係機関や事業所と連携しながら実施できるようにするなど、状況に応じた適切な支援・相談・情報提供を行い、子育てに対し不安や負担の軽減を図る。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

- 【目標値】「東住吉区に住みたい、住み続けたいと思う子育て層の割合」及び「区の特性や地域実情に応じた施策・事業・イベント等があると感じる区民の割合」ともに前年度から増加しており、引き続き目標達成に向け各事業等の参加者以外にも幅広く取組を認知していただく工夫が必要。
- 【子育て支援】子育て世代(これから子育てをはじめの人を含む)が子育てをする際に感じる不安等の軽減を図り孤立化しないために、情報誌発行や様々なイベントを通じて地域全体で子育て世代を支えることが非常に大切である。区内の子育て支援関係機関の連携を重視しながらより一層の子育て支援の充実をはかる。
- ・3歳～7歳未満(未就学児)までの養育者の育児不安は8.2%、虐待とその疑いにおいても7.2%と、前年度よりも減少し目標に達している。0歳～7歳未満までの養育者の育児不安についても25.8%と減少している。今後も子育て支援を継続することで現状維持、さらなる減少を目指す。
- 【区民協働】プロジェクトに参加した区民等の中で、区民が主体的に企画に取り組み、区役所は適切にサポートしてくれていると感じる参加者の割合について目標を大幅に上回っている。区政運営について区民の意見や要望が反映されていると感じていただけるよう、区政会議等の情報の発信や区政運営により多くの方のご意見等を反映させる仕組みづくりの検討が必要。

めざす成果及び戦略 1-1 【東住吉ゆめ応援プロジェクトの充実】

| | | |
|----|--|--|
| 計画 | めざす状態<概ね3～5年を念頭に設定> ・「東住吉区に住みたい、住み続けたい」と思う子育て層の区民が増える。 | 戦略<中期的な取組の方向性> ・区内の地域資源(大学や商店街、企業等)と連携しながら、子育て層にとって関心の高い分野に特化した施策を区独自に展開する。 |
| | アウトカム<めざす状態を数値化した指標> ・「東住吉区に住みたい、住み続けたい」と思う子育て層(25歳～44歳)の区民の割合:平成32年度に90%以上 ・区の特性や地域実情に応じた施策・事業・イベント等があると感じる区民の割合:平成32年度に60%以上 | |

| | | | | | | |
|---------|--|-----------------|------------------------------------|----|----------------|----------------|
| 自己評価 | 戦略のアウトカムに対する有効性 | ア | ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す | 課題 | ※有効性が「イ」の場合は必須 | |
| | アウトカムの達成状況 | | 前年度 個別 全体 | | | |
| | 「東住吉区に住みたい、住み続けたい」と思う子育て層の割合:85.6% | | 83.3% A | A | 今後の対応方向 | ※有効性が「イ」の場合は必須 |
| | 区の特性や地域実情に応じた施策・事業・イベント等があると感じる区民の割合:54.5% | | 51.3% A | A | | |
| | | A:順調 B:順調でない | | | | |
| 戦略の進捗状況 | a | a:順調 b:順調でない | | | | |

具体的取組 1-1-1 【小学生英語交流の推進】

| | | | | | | | |
|--------|--------------|---|--|-------|---------|-------|--------|
| | | 28決算額 | 4372千円 | 29予算額 | 3,665千円 | 30予算額 | 3670千円 |
| 計画 | 取組内容 | 業績目標(中間アウトカム) ①外国語及び外国人に対する興味や関心が参加前より高まった参加小学生が8割以上 ②自分の住んでいるまちや地域に対する興味や関心が参加前より高まった参加小学生が8割以上 【撤退基準】 上記目標がいずれも5割を下回った場合は、事業を再構築する。 | | | | | |
| | | 前年度までの実績 H26:52名応募、H27:45名応募、H28:49名応募 H29:小学5,6年生 26名 小学3,4年生 28名応募 | | | | | |
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | ①(i) | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○ | ○:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定) | | | | |
| 自己評価 | 取組実績 | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 区内在住の小学生:5・6年生 24名(6～9月 E・S・C) 区内在住の小学生:3・4年生 27名(11月～2月 E・S・T) 小学生・中学生合同発表会(9月) | | | | | |
| | 業績目標の達成状況 | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 ①外国語及び外国人に対する興味や関心が参加前より高まった参加小学生の割合:96% ②自分の住んでいるまちや地域に対する興味や関心が参加前より高まった参加小学生の割合:93% ①(i) | | | | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○ | ○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定) | | | | |

| 具体的取組 1-1-2 | | 【中学生海外派遣の推進】 | |
|-------------|---|--|---|
| | | 28決算額 | 5068千円 |
| | | 29予算額 | 5141千円 |
| | | 30予算額 | 5141千円 |
| 計画 | 取組内容 | 業績目標（中間アウトカム） | |
| | 区内在住の中学生7名を対象に、夏休み等の期間を利用して、ホームステイやボランティア活動などの海外留学体験（約3週間）を通じて、地域への愛着を高めるとともに、グローバル感覚を養う機会を提供。 | ①派遣事業終了後もグローバル感覚を養い続けるため、新たな海外留学等により海外と関わり続けたいと思う派遣中学生全員 ②自分の住んでいるまちや地域に対する興味や関心が参加前より高まった派遣中学生全員 ③9月の発表会で「中学生の発表を聞いてよかった」と思う傍聴者の割合80%以上 【撤退基準】 ①②の目標がいずれも半数を下回った場合及び③の目標が50%以下の場合、事業を再構築する。 | |
| | | 前年度までの実績 H25:42名応募、H26:53名応募、H27:40名応募、H28:45名応募 H29:34名応募 | |
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | ①(i) | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○ | |
| 自己評価 | 取組実績 | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | |
| | 区内在住の中学生 7名 小学生・中学生合同発表会(9月) 派遣者によるボランティア従事(区民が訪れるイベントや小学生英語交流事業) | | |
| | 業績目標の達成状況 | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | |
| | ①派遣事業終了後もグローバル感覚を養い続けるため、新たな海外留学等により海外と関わり続けたいと思う派遣中学生:全員 ②自分の住んでいるまちや地域に対する興味や関心が参加前より高まった派遣中学生:全員 ③9月の発表会で「中学生の発表を聞いてよかった」と思う傍聴者の割合:95.8% | ①(i) | |
| | ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成 | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○ | ○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定) |

めざす成果及び戦略 1-2 【子育て・教育支援の充実】

| | |
|--|---|
| <p>めざす状態<概ね3～5年間で念頭に設定></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の関係機関や事業所と連携した取り組みを進め、子育てのしづらさを解消、前向きに子育てができる養護者を増やし、地域での子育てに孤立した親子と児童虐待に至る事例を減少させる。 学校と連携して、子どもたちが力を発揮し円滑に学校生活を送れるようにする。 | <p>戦略<中期的な取組の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> 区内の子育て支援関係機関等と協働して、同世代や異世代間の交流を支援し子育てを応援するとともに、子育てにかかる情報提供が子育て層に行き届くようにする。 子育てのしづらさや発達障がい(疑い)がある親子を早期発見し、早期に療育が受け入れられる仕組み、子育てや親育ちが支援できるような「場」を構築すると共に、子育て相談にも対応し、育児支援を強化する。 発達障がい等のある児童生徒の行動面への支援や基礎学力の向上など各学校の課題に応じた教育活動を支援する。 |
| <p>計画</p> <p>アウトカム<めざす状態を数値化した指標></p> <ul style="list-style-type: none"> 3歳～7歳未満(就学前)までの養護者の育児不安 18.7%(H23年度) →15.0%(H32年度) 虐待・その疑い 20.3%(H23年度) →16.0%(H32年度) *1歳6か月児健診で早期発見をし、その後アプローチを行う(大阪市保健衛生システムより) 子育てや育児に不安や育てにくさを感じている子育て層の割合:平成30年度に25%以下 | |

| <p>戦略のアウトカムに対する有効性</p> <p>ア ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す</p> | ア | <p>課題 ※有効性が「イ」の場合は必須</p> | | | | | | | | | | | | |
|--|--------|--------------------------|----|-------------------------------|--------|---|----------------|-------|---|--------------|------|---|--|-------------------------------|
| <p>アウトカムの達成状況</p> <table border="1"> <tr> <th>前年度</th> <th>個別</th> <th>全体</th> </tr> <tr> <td>育児不安や育てにくさを感じている子育て層の割合 25.8%</td> <td>32.60%</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>3-7歳の育児不安 8.2%</td> <td>10.1%</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>虐待・その疑い 7.2%</td> <td>9.5%</td> <td>A</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">A:順調 B:順調でない</p> | 前年度 | 個別 | 全体 | 育児不安や育てにくさを感じている子育て層の割合 25.8% | 32.60% | A | 3-7歳の育児不安 8.2% | 10.1% | A | 虐待・その疑い 7.2% | 9.5% | A | | <p>今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須</p> |
| 前年度 | 個別 | 全体 | | | | | | | | | | | | |
| 育児不安や育てにくさを感じている子育て層の割合 25.8% | 32.60% | A | | | | | | | | | | | | |
| 3-7歳の育児不安 8.2% | 10.1% | A | | | | | | | | | | | | |
| 虐待・その疑い 7.2% | 9.5% | A | | | | | | | | | | | | |
| <p>戦略の進捗状況</p> <p>a a:順調 b:順調でない</p> | a | | | | | | | | | | | | | |

具体的取組 1-2-1 【子育て支援の推進】

28決算額 14294千円 29予算額 12119千円 30予算額 11,856千円

| | |
|--|---|
| <p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 東住吉区子育て支援連絡会との協働による子育て施策の展開及び情報提供を行う。 東住吉区子育てOHえんフェスタの開催(年1回) 東住吉区子育てファミリー運動会(年1回) OHえん情報誌の作成・配布(毎月) 保存版の作成年間 約1500部 区内幼稚園・保育園・保育所・認定こども園・小学校の職員との学習会 乳幼児健診時に子育てOHえん情報保存版の配布や区社協配信のOHえんメールの周知などタイムリーな情報提供を行い、サービスの利用を促進。 子育て相談・訪問によるサービス 利用者支援専門員等による保育所資源やサービスの利用に関する相談・情報提供の拡充 3名の家庭児童相談員による養育者への相談体制の充実と虐待の予防と早期発見のための取組の強化 家庭での保育が一時的に困難になった乳幼児に対する、保育所等の実施施設における日中一時預かり(3ヶ所) 地域親子サロンを活用した地域妊産婦教室の開催 子どもの居場所ネットワークの推進 | <p>業績目標(中間アウトカム)</p> <p>東住吉区子育てOHえんフェスタの開催時に実施するアンケート調査による満足度:95%以上 【撤退基準】 上記の目標が50%を下回る場合は、事業を再構築する”</p> <p>前年度までの実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 東住吉区子育てOHえんフェスタの参加者 H22年(1回目)274人 H23年 台風で中止 H24年(2回目) 384人 H25年(3回目)407人 H26年(4回目)431人 H27年(5回目) 552人 H28年(6回目) 862人 H29年(7回目) 約800人 子育てOHえん情報誌の配架約100か所(主要4駅)毎月 2,600部 (昨年より約35箇所増、約600部増) 区広報誌の増ページで子育てマップ年1回発行(H29年8月) 家庭児童相談員3名による相談体制 ・一時預かり(3ヶ所) 地域親子サロンを活用した地域妊産婦教室への参加数 平成28年度425人(年間28回実施、平成27年度384人) |
|--|---|

| | | |
|--|------|-------------------------------------|
| <p>業績目標の達成状況</p> <p>①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成</p> | ①(i) | <p>課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須</p> |
| <p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>○ ○:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)</p> | ○ | |

| | | |
|--|---|--|
| <p>取組実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 東住吉区子育てOHえんフェスタ参加人数増、約860名。参加関係機関拡大し新コーナー、新ステージ登場。 OHえん情報誌の配架先を拡大し印刷数も増。 区広報誌で子育てマップ発行(H30年8月) 利用者支援専門員による出張相談実施。 | <p>課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須</p> | |
| <p>自己評価</p> <p>業績目標の達成状況</p> <p>東住吉区子育てOHえんフェスタ開催時に実施するアンケート調査による満足度95%</p> <p>①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成</p> | <p>改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須</p> <p style="text-align: right;">①(i)</p> | |
| <p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>○ ○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)</p> | ○ | |

具体的取組 1-2-2 【子育てカアッパを応援する支援の推進】

| | | | | | | | |
|--------|--|--|---|-------|--------|-------|---------|
| | | 28決算額 | 5555千円 | 29予算額 | 5445千円 | 30予算額 | 4,878千円 |
| 計画 | 取組内容 | 業績目標（中間アウトカム） | | | | | |
| | <p>○子育てカアッパ「キャッチ&フォロー」の推進</p> <p>＜早期発見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい(疑い)等子育てのしづらさを持つ親子を、M-チャット等を使用した問診票により1歳6ヶ月健診、3歳児健診(いずれも16回/年)、心理相談(12回/年)等で選定。 <p>＜早期療育＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもとの遊び方を学ぶ「すくすく教室」の実施(12回/年) ・子育てのコツを学ぶ「親育てのプログラム(2歳児用・4.5歳児用)」を実施(年間6クール) ・友達づくりや子育ての悩みなどを共有できる「交流の場」の構築及び地域で孤立しない相談対応の実施(2回/年) ・平日に参加しづらい保護者を対象に、土日に単発のパパセミナー、ママセミナーを年2回実施。 ＊早期療育が受け入れられる仕組みとしての取組は、委託事業者と連携し実施(「すくすく教室」以外) ・子育てカアッパ講座受講修了者による企画、自主的な取組活動の側面支援。 <p>○臨床心理士による乳幼児期の発達相談・支援体制の充実</p> <p>【参考】</p> <p>早期発見での想定数 1歳6ヶ月健診 1開設55人 →M-チャット等でのフォロー人数11人/月 →2歳児発達相談対象数…10人</p> | <p>①「すくすく教室」参加者から「親育てのプログラム」(2歳児)への参加率60%</p> <p>②親育てのプログラムの満足度:80%以上</p> <p>③交流の場の参加者満足度:80%以上</p> <p>【撤退基準】</p> <p>①及び②の満足度が50%以下の場合かつ、③の参加率が40%を下回る場合は、事業を再構築する。</p> <p>前年度までの実績</p> <p>○子育てカアッパ「キャッチ&フォロー」の推進</p> <p>＜早期発見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1開設フォロー人数:平均15人/月 ・2歳児発達相談実施数 219人/年(いずれも28年度実績) <p>＜早期療育＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すくすく教室 12回実施(4月～3月) 参加者数:平均14組/月 ・すくすく教室からプログラムへの参加率58.8% ・親育てのプログラム(29年度実績) 2歳児 参加数:延べ99人(4・5・8・9月)残り12・1月予定 参加満足度:(4・5・8・9月)100% 4.5歳児 参加数:延べ30人(6月)残り10月予定 参加満足度:100%(6月) ・交流の場:7組参加(7月)満足度100% 11月・2月実施予定 ○臨床心理士による乳幼児期の発達相談・支援体制の充実 | | | | | |
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | ①(i) | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | - | <p>○:有効</p> <p>×:有効でないため取組を見直す</p> <p>—:中間アウトカム未設定(未測定)</p> | | | | |

| | | | | | | | |
|------|--|--------------------------|--|--|--|--|---------------------------|
| 自己評価 | 取組実績 | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | | |
| | <p>○子育てカアッパ「キャッチ&フォロー」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すくすく教室 12回実施(4月～3月) 参加者数:平均14組/月 ・すくすく教室からプログラムへの参加率65.6% ・親育てのプログラム(29年度実績) 2歳児 参加数:延べ150人(4・5・8・9・12・1月) 参加満足度:100% 4.5歳児 参加数:延べ30人(6・10月) 参加満足度:100% ・交流の場:42組参加(7・11・2月)満足度100% ○臨床心理士等による乳幼児期の発達相談・支援体制の充実 | | | | | | |
| 自己評価 | 業績目標の達成状況 | ①(i) | | | | | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○ | <p>○:有効</p> <p>×:有効でないため見直す</p> <p>—:中間アウトカム未設定(未測定)</p> | | | | |

具体的取組 1-2-3 【ニーズに応じた学校への支援】

| | | | | | | | |
|--------|---|---|---|-------|----------|-------|---------------------------|
| | | 28決算額 | 10,078千円 | 29予算額 | 10,101千円 | 30予算額 | 9,616千円 |
| 計画 | 取組内容 | 業績目標（中間アウトカム） | | | | | |
| | <p>・各学校と連携し、子どもや保護者にとって魅力ある学校づくりに向けた取組等(学校選択制など)をサポート、発信。</p> <p>・発達障がい(疑い)に精通した障がい児支援員が、学校を通じて、発達障がい児やその保護者等に対するサポートを年間通して実施(4～3月)。</p> <p>・学校生活において多種多様な支援が必要な児童生徒へのサポートや、民間講師等を活用した学習支援等を実施。(4～3月)</p> | <p>サポーターや民間講師等を活用した学習支援等により子どもの学習支援に繋がったと感じる学校の割合 平成30年度 60%以上</p> <p>【撤退基準】</p> <p>上記目標が30%を下回る場合は、事業を再構築する。</p> <p>前年度までの実績</p> <p>学校選択制にかかる学校案内の作成・配付</p> <p>障がい児支援員が随時小中学校・特別支援学級に訪問・助言・研修</p> <p>民間講師等を活用した学習支援やサポーターの配置</p> | | | | | |
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | ①(i) | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | - | <p>○:有効</p> <p>×:有効でないため取組を見直す</p> <p>—:中間アウトカム未設定(未測定)</p> | | | | |
| 自己評価 | 取組実績 | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | | |
| | <p>・学校選択制にかかる学校案内の作成(2,335部)、学校協議会新任委員向け研修(2回)等を実施</p> <p>・発達障がい(疑い)に精通した発達障がい児支援員が、学校を通じて、発達障がい児やその保護者等に対するサポートを年間通して実施(287回)</p> <p>・「教育活動サポート事業」による学校への支援(サポーター配置・民間講師等による企画事業・課外学習)(21校)</p> | | | | | | |
| 自己評価 | 業績目標の達成状況 | ①(i) | | | | | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○ | <p>○:有効</p> <p>×:有効でないため見直す</p> <p>—:中間アウトカム未設定(未測定)</p> | | | | |

| 具体的取組 1-3-2 【アンケートの充実】 | | 28決算額 | 2,551千円 | 29予算額 | 3773千円 | 30予算額 | 2,100千円 |
|------------------------|---|--|---------|-------|--------|-------|---------|
| 計画 | 取組内容 | 業績目標（中間アウトカム） | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 無作為抽出した区民1,500名に対するアンケート調査の実施（3回、市民局実施分以外はWEBでの回答も可） オンラインアンケートの活用 | ①アンケート調査の有効回収数 1回あたり 400名以上 【撤退基準】 有効回収数がすべての回で300名を下回る場合は、事業を再構築する。 | | | | | |
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | | |
| | ①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退基準未達成 | 前年度までの実績 | | | | | |
| 自己評価 | 戦略に対する取組の有効性 | <input type="radio"/> ○: 有効 <input checked="" type="radio"/> ×: 有効でないため取組を見直す —: 中間アウトカム未設定(未測定) | | | | | |
| | 取組実績 | 区民アンケート調査の有効回収数 第1回 平成30年8月24日～9月7日 582名 第2回 平成30年12月14日～平成31年1月7日 469名 子育て層向けアンケート 平成31年1月29日～2月15日 703名 | | | | | |
| 自己評価 | 業績目標の達成状況 | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | | |
| | アンケート調査の有効回収数 1回あたり 584名 | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | | |
| 自己評価 | 戦略に対する取組の有効性 | <input type="radio"/> ○: 有効 <input checked="" type="radio"/> ×: 有効でないため見直す —: 中間アウトカム未設定(未測定) | | | | | |

| 具体的取組 1-3-3 【区民等の参画と協働による区政運営】 | | 28決算額 | 3773千円 | 29予算額 | 1362千円 | 30予算額 | 575千円 |
|--------------------------------|--|---|--------|-------|--------|-------|-------|
| 計画 | 取組内容 | 業績目標（中間アウトカム） | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 区政会議の開催(本会議3回、2部会各2回) 広報媒体を活用した区政会議の意義や議事内容の区民への周知 新・東住吉区将来ビジョンの実現に向けた、区民が主役となるまちづくりプロジェクト(e-sumiなでしこ)のサポート(月1回) 大阪城南女子短期大学との包括連携会議(1回) 大学や企業等と連携した取組の促進 | プロジェクトに参加した区民等の中で、区民が主体的に企画に取り組み、区役所は適切にサポートしてくれていると感じる参加者の割合: H30年度 60%以上 【撤退基準】 上記目標が30%を下回った場合、事業を再構築する。 | | | | | |
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | | |
| | ①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退基準未達成 | 前年度までの実績 | | | | | |
| 自己評価 | 戦略に対する取組の有効性 | <input type="radio"/> ○: 有効 <input checked="" type="radio"/> ×: 有効でないため見直す —: 中間アウトカム未設定(未測定) | | | | | |
| | 取組実績 | 区政会議の開催(本会議3回、2部会各2回実施) 区政会議の意義や議事内容の区民への周知(広報紙等) 区民が主役となるまちづくりプロジェクト(e-sumiなでしこ)のサポート(10回) 大阪城南女子短期大学との包括連携会議(1回) 大学や企業等との連携(城南女子短期大学・大阪市立大学・吉本興業) | | | | | |
| 自己評価 | 業績目標の達成状況 | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | | |
| | プロジェクトに参加した区民等の中で、区民が主体的に企画に取り組み、区役所は適切にサポートしてくれていると感じる参加者の割合: 90.9% | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | | |
| 自己評価 | 戦略に対する取組の有効性 | <input type="radio"/> ○: 有効 <input checked="" type="radio"/> ×: 有効でないため見直す —: 中間アウトカム未設定(未測定) | | | | | |

具体的取組 1-3-4 【区の相談・調整機能の充実】

28決算額 1458千円 29予算額 1428千円 30予算額 1215千円

| | | |
|----|--|---|
| 計画 | 取組内容 | 業績目標（中間アウトカム） |
| | <p>区役所において、区民から相談や要望を受け付け、局、事業所などと連携し、迅速かつ適切に対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の声：随時 ・法律相談（弁護士）：月4回 ・法律相談（司法書士）：月2回 ・税務・行政・不動産・就労相談：月1回 ・相続遺言帰化相談（行政書士）：月1回 ・若者・女性の就労等トータルサポート事業：月1回 ・行政連絡調整会議及び行政連絡調整会議小会議の開催（隔月） <p>職員の対応力の向上に向けたスキルアップ研修の実施 （区改編 改革の柱2 IV-A①） 「東住吉おもてなしプロジェクト」を継続実施し、各課を横断した全職員の意識向上の取組を推進</p> | <p>過去1年間に、区役所に日常生活に関する相談や要望を行った区民のうち、区役所が区における市政の総合窓口として適切に対応したと思う区民の割合：75%以上 【撤退基準】 上記目標が60%を下回る場合は、事業を再構築する。</p> <p>前年度までの実績</p> <p>市民の声（27年度237件）、法律相談（弁護士）：月4回、法律相談（司法書士）：月2回、税務・行政・不動産・就労相談：月1回、相続遺言帰化相談（行政書士）：月1回。 行政連絡調整会議及び行政連絡調整会議小会議（各6回） 庁舎周辺清掃の実施【毎週水曜日、年1回秋頃（大阪マラソンクリーンアップ大作戦）】 （区役所職員の対応力向上に向けたスキルアップ研修（全6回） タウンウォッチング研修（全2回）</p> |

| | | | |
|--------|---|------|--|
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | ①(i) | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| | <p>①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退基準未達成</p> | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | - | ○：有効 ×：有効でないため取組を見直す —：中間アウトカム未設定（未測定） |

| | | | |
|------|--|---|---|
| 自己評価 | 取組実績 | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | |
| | <p>タウンウォッチング研修や民間講師による職員力向上に向けたスキルアップ研修を実施するとともに、「東住吉おもてなしプロジェクト」を継続実施し、各課を横断した全職員の意識向上を推進した。 「市政改革の基本的な考え方を踏まえ、仕事のやり方を変えることを意識している職員の割合」89.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の声（30年度110件） ・法律相談（弁護士）：年間47回実施 ・法律相談（司法書士）：年間21回実施 ・税務・行政・不動産・就労相談：年間32回実施 ・相続遺言帰化相談（行政書士）：年間11回実施 ・若者・女性の就労等トータルサポート事業：12回実施 ・行政連絡調整会議及び行政連絡調整会議小会議の開催：10回 | <p>継続した取組として、職員一人ひとりが「おもてなしプロジェクト」の趣旨を理解し、区民に分かりやすく丁寧な対応を意識して行動する必要がある。 区役所が適切に対応したと感じる割合が、前回調査結果より低くなっており、なおかつ目標達成が出来なかったことから、職員一人ひとりが分かりやすく丁寧な対応を引き続き行う必要がある。</p> | |
| | 業績目標の達成状況 | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | |
| | <p>区役所が、相談や問い合わせ内容について適切に対応したと思う区民の割合：69.2%</p> <p>①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退基準未達成</p> | <p>取組は計画通りに実施することができたが、今後は区民ニーズに沿ったおもてなし向上に向けた研修などの定期的な実施により職員一人一人の意識向上を図る。また、各取組において把握し・改善を行ったものについて、庁内の各所に掲示を行うなど発信面の強化を行っていく。</p> | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○ | ○：有効 ×：有効でないため見直す —：中間アウトカム未設定（未測定） |

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題2

【誰もが安心して心豊かに暮らせるまちづくりの推進】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

- ・大規模な自然災害発生時に、区民が防災の正しい知識に基づき備えを実践し自らの身を守り、地域住民が自ら救出救護・初期消火・避難行動要支援者の避難誘導・避難所開設などを行えるとともに、区役所が区災害対策本部としての機能を十分発揮し、地域と避難所との連携をスムーズに行うことで、被害を最小限にするまちになる。
- ・誰もが健康的で安心して心豊かに暮らしていけるように、地域のあらゆる力を集めて、あたたかなつながりがあり、誰もが“しあわせに”暮らせる、住みよいまちにする。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

【防災】

- ・自助・共助ともに意味を理解している区民の割合 57.0%
- ・学校・各種団体等と連携して防災訓練等に取組んでいる地域 14地域中：8地域
- ・地域防災リーダーの平均年齢 62.6歳
- ・地域防災リーダーの女性割合 20.9%
- ・有事の際の役割を認識している職員の割合 99.2%

「平成28年度第2回区民アンケート」結果

| | |
|-------------------|-------|
| 「自助」「共助」ともに理解している | 57.0% |
| 「自助」は理解している | 17.0% |
| 「共助」は理解している | 1.3% |
| 災害に対し、なにか備えをしている | 70.5% |
| 水や食料などを備蓄している | 38.9% |
| 非常持ち出し品を用意している | 45.6% |
| 家具等を固定している | 17.5% |
| 災害時の連絡方法等を確認している | 27.3% |

【防犯】東住吉区内における犯罪発生件数（大阪重点犯罪）

| | 大阪重点犯罪 | | | | | 特殊詐欺 |
|------------------|--------|------|---------|-------|-------|------|
| | 街頭犯罪 | | 自動車関連犯罪 | | | |
| | ひったくり | 路上強盗 | 自動車盗 | 車上ねらい | 部品ねらい | |
| 平成28年 | 18件 | 5件 | 45件 | 451件 | 182件 | 23件 |
| 平成29年 (8月末現在) | 17件 | 0件 | 14件 | 152件 | 63件 | 14件 |

- 【空家】区内の空家率23.8%（24区中1位）、区内の空家数18,510戸（24区中4位）（平成25年住宅・土地統計調査）
- 【福祉】平成27年と平成12年の東住吉区の高齢者の人口を比較すると、前期高齢者約1.1倍、後期高齢者約1.7倍に増。平成27年と平成12年の高齢夫婦世帯数・高齢単身世帯数を比較すると高齢夫婦世帯約1.1倍、高齢単身世帯約1.5倍に増。
- 【健康】当区の死亡率（12.7）は、年々増加（24区中3位）。悪性新生物（がん）を要因とした死亡率が24区中2位。（H28）
- ・がん検診・特定健康診査の受診率が低調
- 【認知症】東住吉区の高齢者、介護保険認定者（居宅）中、認知症と診断されている人（日常生活自立度Ⅱa以上）はH28年2,433人（30.0%）、H29年2,500人（31.1%）※大阪府全体ではH28年30.8%・H29年31.2% である。施設入所者も含めるとH29年4,391人である。
- ・地域包括支援センター・プランテの高齢者総合相談件数の内、認知症疑いありの件数は、H27年度6,129件（相談者件数の27.8%）、平成28年度8,573件（同34.7%）と増加している。

要因分析（現状・データから導かれる分析結果）＜めざすべき将来像と現状に差が生じる要因＞

- 【防災】自分や家族の命は自分で守るといふ「自助」の考えが十分に浸透していない。
- ・自分たちのまちは自分たちで守るといふ「共助」の意識が十分に浸透しておらず、担い手についても高齢化し、女性の参画も十分とはいえない。
- ・区災害対策本部の編成や各班の役割については認識が進んでいるが、実際の行動内容に関しては十分とはいえない。
- 【防犯】
- ・街頭犯罪発生件数は平成27年と比べ平成28年は減少した（1300件⇒1293件）が、防犯モデル区指定による重点的な対策で達成した平成25年の件数（1056件）を上回っている。平成28年以降は大阪府警により地域の犯罪情勢に即した犯罪抑止総合対策として重点犯罪が再設定され、近年増加している特殊詐欺が大阪重点犯罪に追加された。ひったくり・路上強盗と自動車関連犯罪の合計が平成29年8月末時点において、前年比55%（-303件）となっている。減少傾向は全市的な傾向である。ただし、犯罪の起こりにくいまちであると考えられる区民の割合は低く、区民の防犯への関心が十分に高まっていないことが考えられる。
- 【空家】一戸建の戸数が多いこと、高齢化率が高いことから、今後いっそう空家率・数とも増え、まちの安全安心が脅かされる危険性がある。
- 【福祉】高齢化の進行で、高齢者の中で、介護や支援を必要とする人の割合が大きくなる後期高齢者が増。家族による支援が受けにくい人や世帯が増。
- ・外に出て活動することがなくなり、地域とのつながりが少なく、家庭内に閉じこもっている高齢者など、支援を必要としながら、社会的に孤立し、適切な支援につながっていない人々が多い。
- 【健康】がん検診、特定健康診査の受診率が全市平均より下回っている状況が、死亡率、とりわけがんの死亡率が高い要因と考えられる。
- 【認知症】高齢者人口の15%が認知症であるとされ、東住吉区では推計値5,642人となる。まだ1,251人が潜在している可能性がある。また、介護保険認定者中の認知症患者の43%が施設入所者であることから、「まちで暮らしている」状態ではない。認知症は早期発見・早期治療が必要な疾患であり、症状が進行すると社会的に孤立し、問題が複雑化しやすく在宅生活の継続が困難となる傾向がある。

課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞

- 【防災】自分の力で減災に繋がる行動ができるよう、全区民に対し防災意識の向上を図ること。
- ・地域の中で減災に繋がる行動ができるよう、自主防災組織の機能強化を図ること。
- ・職員が災害時の役割と行動を理解できるよう職員研修、職員訓練を繰り返し実施すること。
- 【防犯】犯罪抑止のため、警察署、地域と連携し継続的に取組むこと。
- ・区民の防犯への関心を高めること。
- 【空家】特定空家等の是正に向けて取組を進めるとともに、空家の利活用に向けた取組も合わせて進める必要がある。
- 【福祉】高齢化が一層進行し、高齢夫婦や高齢単身世帯が増えていることから、地域での見守りや支えあいの活動を一層推進する必要がある。
- ・社会的に孤立した人に対して、地域のなかで役割や居場所を見つけ、孤立状態に戻ることを防止するよう支援する取り組みも必要となっている。
- ・身近なところで気兼ねなく相談でき、必要な支援に的確につながるしきりを確立していくことが求められる。
- 【健康】区民自ら健康の保持増進に努め、生活習慣病予防、認知症予防のための活動を習慣化し、疾病予防のための特定検診やがん健診を受診するなど、意識を向上させる必要がある。
- 【認知症】高齢者自身が元気な段階から地域と関わりを持ち、認知症を予防すること。
- ・認知症になっても地域全体で支えあえるネットワークを保健・医療・福祉・介護の各関係機関と協働して構築すること。
- ・地域の見守りや気づきや情報を早期の相談・治療・介護につなぐ仕組みをつくること。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

- 【防災】この間の災害対応における課題を踏まえた区本部体制の整備や初動にあたる職員への実践的な研修等の実施、地域防災訓練等の支援により、災害対応力の向上につながったと認識しているが、特に自助に対する意識向上に努めていく必要がある。
- 【防犯】犯罪の起こりにくいまちづくりの推進について、犯罪類型に応じた対策の各具体的取り組みを実施し街頭犯罪も減少している。ただし、アウトカムに設定した「犯罪の起こりにくいまちであると考えられる区民の割合平成32年度60%以上」については、達成できておらず、犯罪が起こりにくいまちの実現に向けては、引き続き各種防犯の取り組みを進めることに加え、その成果を周知することにより、引き続き区民に犯罪の起こりにくいまちであると感じていただけるような情報発信に努める必要がある。
- 【空家】特定空家等の是正に取り組むとともに、空家等の利活用事例やまちの資源についての情報を発信するなど東住吉区の魅力を高める必要がある。
- 【福祉】身近なところで相談でき、地域において必要な支援を得られる地域支援システムづくりに取り組んでいるが、受けた相談（困りごと）を「支援する体制」づくりの遅れ等から、区民の満足（安心感）を十分に得られておらず、地域福祉の担い手の発掘・育成による「地域包括ケアシステム」の充実が必要である。
- 【健康】特定健康診査の受診率は昨年度に引き続き前年度を上回っており、がん検診の受診率は、5検診のうち4検診の受診率が前年度を上回った。地域健康講座やイベント等での勧奨や出張受付等により新たな受診者が少しずつ増加しており、区民のさらなる健康意識の向上にむけ引き続き、受診勧奨や出張受付を継続していく必要がある。

めざす成果及び戦略 2-1 【東住吉区防災力の強化】

| | | |
|----|--|--|
| 計画 | めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> | 戦略<中期的な取組の方向性> |
| | ・防災・減災対策は自分の責務でもあることを理解している区民の割合を高める。 ・全地域で自主的・自律的な防災訓練ができています。 ・区役所職員が有事の際に初期初動ができる。 | ・区域防災計画や区防災マップを全区民に認知してもらい取組みを進めるとともに、様々な機会において防災啓発活動を実施することで、区民全体の防災意識の向上を図る。 ・地域防災への女性や若年層の参画を促進し、地域住民の意向を反映した防災訓練の支援を行うとともに、地域に実状に応じてより実践的な避難所開設訓練や地区防災計画の策定・改訂に向けた支援等を行うことにより、自主防災組織の機能強化を図る。 ・区災害対策本部の役割を全職員に認識させる取組みを進めるとともに、初期初動及び災害応急対策の中核を担う4号動員職員を重点的に養成することにより、区役所全体の防災力の強化を図る。 |
| | アウトカム<めざす状態を数値化した指標> | |
| | ・自らのことは自らで守るといふ「自助の考え方を理解している」区民の割合：平成32年度末までに60%以上 ・年1回以上、自主的・自律的な防災訓練を実施している地域：平成32年度末までに全地域（14地域） ・職員アンケートで「有事の際の役割を理解している」職員の割合：平成32年度末までに100% | |

| | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|-----------------|------------------------------------|-------------------|------------------------|
| 自己評価 | 戦略のアウトカムに対する有効性 | ア | ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す | 課題 ※有効性が「イ」の場合は必須 | |
| | アウトカムの達成状況 | 前年度 | 個別 | 全体 | |
| | 区民アンケートで、「自助の考え方を理解している」と回答した割合 79.7% | 81.3% | B | A | 今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須 |
| | 年1回以上、自主的・自律的な防災訓練を実施している地域 13地域 | 13地域 | A | | |
| 職員アンケートで「有事の際の役割を理解している」と回答した割合 98.8% | 99.6% | B | | | |
| A：順調 B：順調でない | | | | | |
| 戦略の進捗状況 | b | a：順調 b：順調でない | | | |

具体的取組 2-1-1 【家庭の防災力強化(自助)】

28決算額 1,484千円 | 29予算額 494千円 | 30予算額 372千円

| | | |
|----|---|---|
| 計画 | 取組内容 | 業績目標 (中間アウトカム) |
| | 区民の防災意識を向上させる取組 ・防災マップ等のホームページや広報紙などでの情報発信(年2回)及び様々な催し等での配布(年5回) ・防災講演会などの防災イベントの開催(年1回以上) ・乳幼児健診等における防災啓発の実施(月3回) ・各小中学校の「防災・減災教育カリキュラム」に基づく防災研修・防災訓練等の支援(20校) | ①災害に対して備えをしている区民の割合：80%以上 【撤退基準】 上記目標が50%以下であれば、事業を再構築する。 |
| | | 前年度までの実績 |
| | | ・防災マップ等の広報紙での情報発信(9月・3月) ・防災セミナー、防災イベントの開催(9月・2月) ・乳幼児健診における防災啓発の実施(47回) ・小中学校における防災研修等の実施支援(13校) ・地域の食事サービス・ふれあい喫茶での防災啓発(14地域・19回) |

| | | | |
|--------|--|------|--|
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | ①(i) | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| | ①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退基準未達成 | - | ○：有効 ×：有効でないため取組を見直す —：中間アウトカム未設定(未測定) |

| | | |
|------|---|---|
| 自己評価 | 取組実績 | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| | ・防災マップ等の広報紙での情報発信(9月・2月)及び啓発イベント等での配布(5回) ・防災フェスタ(2月)の開催 ・小中学校における防災研修等の実施支援(11校) | 防災フェスタ等の啓発イベントの開催や広報紙での情報発信等の取組を行っているものの、区民の防災意識が十分に高まっていない。 |
| | 業績目標の達成状況 | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| | 災害に対して備えをしている区民の割合：75.4% | ②(x) 大阪府北部を震源とする地震の発生や台風第21号を契機にして区民の防災意識も高まってきているところであるため、引き続き防災イベント等の啓発活動を実施するとともに、住民に対する地域防災訓練への参加促進など区役所と自主防災組織が共同し取組の浸透を図ることで区民全体の防災意識を醸成する。 |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○ |
| | | ○：有効 ×：有効でないため見直す —：中間アウトカム未設定(未測定) |

| | | | | |
|----------------------------------|--|--|---------------|---------------|
| 具体的取組2-1-2 【地域の防災力強化(共助)】 | | 28決算額 1,798千円 | 29予算額 2,533千円 | 30予算額 1,242千円 |
| 計画 | 取組内容 | 業績目標 (中間アウトカム) | | |
| | 自主防災組織の機能強化を図る取組 ・地域の自主的、自律的な防災訓練の支援(14地域) ・地域防災リーダー防災学習の実施 ・地区防災計画の策定・改訂に向けた支援(14地域) ・地域防災活動への女性の参画促進に向けた支援 ・各小中学校の「防災・減災教育カリキュラム」に基づく防災研修・防災訓練等の支援(20校) ・事業所等に対する災害への備えと地域との連携の呼びかけ ・各地域で自主的、自律的に取り組まれている防災訓練等に関する情報の発信 | ①有事の際にどのように行動すべきか理解している地域防災リーダーの割合:H30年度 70%以上 【撤退基準】 上記目標が50%以下であれば、事業を再構築する。 前年度までの実績 ・地域等での防災訓練等の実施(14地域) ・地域防災リーダー・女性防火クラブ合同研修の実施(5月) ・地区防災計画策定に向けた働きかけ・策定支援(14地域) ・事業所と地域との連携(災害時協力事業所登録制度の改正・地域へ情報提供) | | |

| | | | |
|--------|--|--|------------------------------|
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | ①(i) | 課題と改善策 ※左記に「2、3」、「×」がある場合は必須 |
| | ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成 | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○ ○:有効 × ×:有効でないため取組を見直す - 中間アウトカム未設定(未測定) | |

| | | | |
|------|---|---|---------------------------|
| 自己評価 | 取組実績 | 課題 ※左記に「2、3」、「×」がある場合は必須 | |
| | ・地域等での防災訓練等の支援(14地域) ・地域防災リーダー・女性防火クラブ合同研修の実施(5月) ・地区防災計画策定に向けた働きかけ・策定支援(策定済を除く6地域) ・各小中学校の防災研修・防災訓練等の支援(11校) ・防災訓練等に関する情報の他地域との共有化(防災リーダー会議等での共有化) | | |
| | 業績目標の達成状況 | ①(i) | 改善策 ※左記に「2、3」、「×」がある場合は必須 |
| | 有事の際にどのように行動すべきか理解している地域防災リーダーの割合:88.4% ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成 | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○ ○:有効 × ×:有効でないため見直す - 中間アウトカム未設定(未測定) | |

具体的取組2-1-3 【区役所の防災力強化(公助)】

| | | | |
|---------------|--|---|-------------|
| 28決算額 2,062千円 | | 29予算額 579千円 | 30予算額 811千円 |
| 計画 | 取組内容 | 業績目標 (中間アウトカム) | |
| | 区災害対策本部の機能強化を図る取組 ・総合防災訓練・震災総合訓練・緊急区本部員訓練・職員防災研修・直近参集者研修などにおいて、より実働的な内容を盛り込み、職員の意識を高める取組を実施(それぞれ年1回以上) ・初期初動マニュアルの4号動員職員への配付 | ①非常災害時の参集基準や区内の避難場所を理解している職員の割合:95% 【撤退基準】 上記目標が85%以下であれば、事業を再構築する。 前年度までの実績 ・総合防災訓練(9月)、4号動員職員・直近参集者研修(9月)、職員防災研修(1月)、震災総合訓練(1-2月) ・災害時における医療救護体制にかかる医薬品等の整備(H28) | |

| | | | |
|--------|--|--|------------------------------|
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | ①(i) | 課題と改善策 ※左記に「2、3」、「×」がある場合は必須 |
| | ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成 | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | - ○:有効 × ×:有効でないため取組を見直す - 中間アウトカム未設定(未測定) | |

| | | | |
|------|---|---|---------------------------|
| 自己評価 | 取組実績 | 課題 ※左記に「2、3」、「×」がある場合は必須 | |
| | ・3号動員職員・直近参集者職員研修(9・10月) ・総合防災訓練(9月)、震災総合訓練(1月) ・初期初動マニュアルの3号動員職員・直近参集者への配付、全職員への携帯用マニュアルの配付 ・マニュアルを活用した研修の実施 ・区の特性に応じた資器材等の避難所への配備 | | |
| | 業績目標の達成状況 | ①(i) | 改善策 ※左記に「2、3」、「×」がある場合は必須 |
| | 非常災害時の参集基準や区内の避難場所を理解している職員の割合:98.8% ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成 | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○ ○:有効 × ×:有効でないため見直す - 中間アウトカム未設定(未測定) | |

めざす成果及び戦略 2-2 【犯罪のない安心できるまちづくりの推進】

| | | | | |
|---------|--|------------------------------------|--|---|
| 計画 | めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> 犯罪がない、安全で安心して暮らせるまちになる。 | | 戦略<中期的な取組の方向性> ・犯罪類型に応じた迅速で効果的な対策を警察署、地域と連携して継続的に取組む。 ・犯罪を未然に防ぐため、啓発活動及び情報発信を行い、区民の防犯への関心を高める。 | |
| | アウトカム<めざす状態を数値化した指標> 犯罪のない安心できるまちであるとする区民の割合：平成32年度までに60%以上 | | | |
| 自己評価 | 戦略のアウトカムに対する有効性 | ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す | 課題 ※有効性が「イ」の場合は必須 街頭犯罪発生件数について、平成30年は前年比約▲5.7%であり、大幅な減少となった平成29年をさらに下回る結果となった。しかしながら、「犯罪のない安心できるまちであるとする区民の割合」は目標値の60%を下回っていることから、安心できるまちであるとする区民の割合を今後も進めていく必要がある。 | |
| | アウトカムの達成状況 | 前年度 個別 全体 | 今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須 犯罪発生件数の減少についての成果の周知や、防犯意識向上のための情報発信・啓発活動について積極的に取り組みながら、引き続き犯罪発生件数の減少に向けた防犯取組を継続して行う。 | |
| | 犯罪のない安心できるまちであるとする区民の割合 54.8% | 38.3% | A | A |
| | | | A：順調 B：順調でない | |
| 戦略の進捗状況 | a | a：順調 b：順調でない | | |

具体的取組 2-2-1 【犯罪類型に応じた対策】

| | | | | | | | |
|--------|--|---|--|---------------------------|---------|-------|---------|
| | | 28決算額 | 8,721千円 | 29予算額 | 9,452千円 | 30予算額 | 1,658千円 |
| 計画 | 取組内容 | 業績目標（中間アウトカム） ①区役所が警察署、地域と連携して実施する防犯に関する取組が、犯罪抑止に役立つと考える区民の割合 80%以上 【撤退基準】 上記目標が50%に達しない場合は、事業を再構築し、取組を強化する。 前年度までの実績 ひたくり防止カバー取付キャンペーン(60回) シリンダー錠取付キャンペーン(20回) 通勤時間帯における女性への啓発(随時) 子ども安全講習の実施(年85回) 防犯カメラの設置(20台) 青色防犯パトロールカー、自転車による巡回(随時) 広報紙、ラビット通信、HP、ツイッター等による情報発信(随時) | | | | | |
| | 業績目標の達成状況 | ①(i) | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | |
| 中間振り返り | ①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退基準未達成 | | | | | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | - | ○：有効 ×：有効でないため取組を見直す —：中間アウトカム未設定(未測定) | | | | |
| 自己評価 | 取組実績 | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 ひたくり防止カバー取付キャンペーン(52回)、シリンダー錠取付キャンペーン(37回)、子ども安全講習の実施(89回)、街頭やコンビニ等での振り込み詐欺防止啓発(3回)、青色防犯パトロール車・自転車による巡回(随時)、広報紙・ラビット通信・HP・ツイッター等による情報発信(随時)・夜間防犯パトロール(47回)、車上ねらい被害防止キャンペーン(12回) | | | | | |
| | 業績目標の達成状況 | 区役所が警察署、地域と連携して実施する防犯に関する取組が、犯罪抑止に役立つと考える区民の割合 94.9% | ①(i) | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○ | ○：有効 ×：有効でないため見直す —：中間アウトカム未設定(未測定) | | | | |

めざす成果及び戦略 2-3 【魅力向上に向けたまちづくりの推進】

| | | | | | |
|---------|--|-------------------------|--|-------|---|
| 計画 | めざす状態<概ね3~5年間で念頭に設定> | | 戦略<中期的な取組の方向性> | | |
| | ・不安を感じる区民が減り、地域が活性化し、まちの魅力が向上する。 アウトカム<めざす状態を数値化した指標> ・特定空家等の解体や補修等による是正が平成32年度までに30件以上 ・空家に対する不安を感じる区民の割合が平成32年度までに平成28年度(18.4%)比で50%減 ・まちに魅力を感じる区民の割合が平成32年度までに80%以上 | | ・エリア魅力を高めるよう、計画的に進める。 ・特定空家等の是正及び空家の適正管理や利活用の促進等を総合的に進める。 | | |
| 自己評価 | 戦略のアウトカムに対する有効性 | ア | ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す | | |
| | アウトカムの達成状況 | | 前年度 | 個別 全体 | |
| | ・特定空家等の解体や補修等による是正が平成32年度までに30件以上:55件 ・空家に対する不安を感じる区民の割合が平成32年度までに平成28年度(18.4%)比で50%減:13.1% ・まちに魅力を感じる区民の割合が平成32年度までに80%以上:73.7% | | 31件 | A | B |
| | | | 10.8% | B | |
| 戦略の進捗状況 | b | a:順調 B:順調でない b:順調でない | | | |
| | | | 課題 ※有効性が「イ」の場合は必須 | | |
| | | | 今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須 | | |

具体的取組2-3-1 【地域活性化に向けた取組の推進】

| | | | | | | | |
|--------------|--|---|---|-------|-----------|-------|---------|
| | | 27決算額 | — 円 | 29予算額 | 15,837千 円 | 30予算額 | 6789千 円 |
| 計画 | 取組内容 | | 業績目標 (中間アウトカム) | | | | |
| | ・現地調査や税情報等を活用した所有者の照会調査、調査により特定された所有者への電話、面会、文書等による指導を行い、特定空家等を是正 ・空き家活性化サポーター制度を活用した利活用の推進 ・矢田南部地域におけるまちづくりの取組 等 | | ①特定空家等の解体や補修等による是正件数 4件 ②空家に対する漠然とした不安を感じる区民の割合:前年度比10%減 ③まちの魅力を知る機会が増えたと感じる区民の割合 50%以上 【撤退基準】 ①が2件、②が前年度比10%増、③が30%未満となった場合は、事業を再構築する。 | | | | |
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | | ①(i) | | | | |
| | ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成 | | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | |
| 自己評価 | 戦略に対する取組の有効性 | | ○:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定) | | | | |
| | 取組実績 | | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | |
| | ・東住吉区矢田南部地域まちづくりビジョンの策定(平成30年6月) ・東住吉区矢田南部地域における開発条件付き市有不動産売却に関する開発事業者募集プロポーザルの実施(平成31年2月28日~) ・現地調査や税情報等を活用した所有者の照会調査、調査により特定された所有者への電話、面会、文書等による指導を行い、特定空家等を是正 24件 | | 空家に対する区の取組が十分に区民に周知されていないことから、空家に対する漠然とした不安を感じる区民の割合が継続的に減少していない。 | | | | |
| | 業績目標の達成状況 | | ②(i) | | | | |
| 自己評価 | ①特定空家等の解体や補修等による是正件数:24件 ②空家に対する漠然とした不安を感じる区民の割合:13.1%(前年度比21.3%増) ③まちの魅力を知る機会が増えたと感じる区民の割合:73.7% | | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | |
| | ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成 | | 特定空家等の是正に取組み、周辺住民等の不安感を軽減させるとともに、空き家活性化サポーター制度を充実させ、無料相談会開催等により空き家所有者等の不安を解消していく。また、空家に対する区の取組を、広報紙・HP・Facebook等で具体的にイメージしやすい形で発信する。 | | | | |
| 戦略に対する取組の有効性 | | ○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定) | | | | | |

めざす成果及び戦略 2-4 【健康で心豊かに暮らせるまちづくりの推進】

| | | |
|----|----------------------|----------------|
| 計画 | めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> | 戦略<中期的な取組の方向性> |
| | アウトカム<めざす状態を数値化した指標> | |

| | | | |
|------|-----------------|------------------------------------|--|
| 自己評価 | 戦略のアウトカムに対する有効性 | ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す | 課題 ※有効性が「イ」の場合は必須 |
| | アウトカムの達成状況 | 前年度 個別 全体 | 5項目のがん検診のうち、4項目について受診率の前年度比伸び率が市平均の前年度比伸び率を上回っていることから、少しずつ取組の効果が表れていると考えられる。引き続き健康講座やイベント等あらゆる機会でがん検診の必要性を広く周知し、新たな受診者を増加させる必要がある。 |

具体的取組 2-4-1 【福祉相談のためのネットワークの強化】

| | | | | | | | |
|----|------|------------------------------|----------|---|----------|-------|----------|
| | | 28決算額 | 31,146千円 | 29予算額 | 35,837千円 | 30予算額 | 46,666千円 |
| 計画 | 取組内容 | 業績目標 (中間アウトカム) | | ①「あなたやご家族は、健康や福祉・介護のことで困ったときの相談先として、『家族・親族』以外にも地域等に相談できる窓口があり満足している」と感じている区民の割合:40%以上 | | | |
| | 取組実績 | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | 地域等に相談窓口があること、安否確認・制度のはざまの相談支援等が行われていること等が区民に十分伝わっていない。 | | | |

具体的取組2-4-2 【生活習慣病予防の推進】

| | | | | | | | | |
|--------|--------------|---|-------|-------|-------|-------|--|--|
| | | 28決算額 | 576千円 | 29予算額 | 905千円 | 30予算額 | 884千円 | |
| 計画 | 取組内容 | 地域健康講座(329回)時に、東住吉区のがんでの死亡率、生活習慣病発生数などのデータを活用し、健診の必要性の啓発とがん予防の生活習慣病指導(禁煙指導を含む)の実施。 ・食品や環境衛生事業者(理容所等)との連携によるがん検診・特定健康診査の受診勧奨の実施。 ・食育の日(12回)、乳幼児健診(32回)、食品衛生講習会(12回)、健康展(10月)、食育フェスタ(2月)、地域健康講座(307回)開催時、がん検診・特定健康診査の受診勧奨の実施。 | | | | | 業績目標(中間アウトカム) ・がん検診・特定健康診査受診率が平成28年度を上回る。 【撤退基準】 すべてのがん検診・特定健康診査受診率が平成28年度を上回ることができなかった場合、事業を再構築する。 | |
| | 計画 | 前年度までの実績 ・がん検診受診率(%) (H28) 胃がん2.7、大腸がん6.1、肺がん3.4、子宮頸がん16.3、乳がん13.5 ・特定健康診査受診率 22.7%(H28) | | | | | | |
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | ①(i) | | | | | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○ | | | | | ①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退基準未達成 ○: 有効 ×: 有効でないため取組を見直す —: 中間アウトカム未設定(未測定) | |
| 自己評価 | 取組実績 | 業績目標の達成状況 | | | | | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | |
| | 取組実績 | ・がん検診の受診率が平成28年度を上回る(4項目) ・特定健診の受診率が平成28年度を上回る(23.3%) | | | | | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 がん検診の受診率向上の効果的な手法として受診者を直接獲得できる出張受付の機会を増やすとともに、効果的な広報等について検討する。 | |
| 自己評価 | 戦略に対する取組の有効性 | ○ | | | | | ①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退基準未達成 ○: 有効 ×: 有効でないため見直す —: 中間アウトカム未設定(未測定) | |

具体的取組2-4-3 【はつらつ脳活性化元気アップの推進】

| | | | | | | | | |
|--------|--------------|--|---|-------|---------|-------|--|---------------------------|
| | | 28決算額 | 706千円 | 29予算額 | 1,187千円 | 30予算額 | 1015千円 | |
| 計画 | 取組内容 | 1)人材(リーダー)の育成 ①「はつらつ脳活性化元気アップリーダー養成講座」の開催 ・自分の健康、地域を元気にする意識啓発と技術取得のための講座開催(年1回、8回コース600名受講) 2)リーダー活動の拡充 ①「はつらつ脳活性化元気アップ講座」の開催 ・リーダーが中心となり、各地域で健康づくりから認知症予防の講座開催 ・4地域の包括圏域での講座を開催し、地域住民の交流の輪を広げ、顔が見える関係づくりもい、災害への平常時の活動に繋げる ②多世代交流の実施 ・高齢者や認知症に対する理解を深め、地域支援のしくみづくりの一手法として、区役所、社協、包括、学校医、キャラバンメイトとリーダーが連携し、小学5年生に、講話や語り部、昔の遊びの体験学習を実施(1~2校) ・育成した子どもたちが夏休みや冬休みの同講座に参加、交流 | | | | | 業績目標(中間アウトカム) 1)・リーダー育成数 20名 2)リーダー活動の拡充 ①・講座参加者の満足度 60%以上 ②・小学校開催時のリーダー等の満足度 60%以上 ・育成した子どもたちが同講座で交流(2か所以上) | |
| | 計画 | 【撤退基準】 1)10名以下の場合は、事業を再構築する。 2)リーダー活動の拡充。 ①の満足度30%かつ②の満足度30%以下の場合、事業を再構築する。 | | | | | 前年度までの実績 | |
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | ①(i) | | | | | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○ | | | | | ①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退基準未達成 ○: 有効 ×: 有効でないため取組を見直す —: 中間アウトカム未設定(未測定) | |
| 自己評価 | 取組実績 | ・はつらつ脳活性化元気アップリーダー養成講座 8回開催48名が修了 ・はつらつ脳活性化元気アップ講座実施 ・東住吉区オレンジキッズ(認知症キッズサポーター)養成講座(北田辺・湯里)時、リーダーが協力・支援を実施 | | | | | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | |
| | 自己評価 | 業績目標の達成状況 | 1)・リーダー育成数 48名 2)リーダー活動の拡充 ①・講座参加者の満足度 94% ②・小学校開催時のリーダー等の満足度 92% ・育成した子どもたちが同講座で交流:2か所 | | | | | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| 自己評価 | 戦略に対する取組の有効性 | ○ | | | | | ①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退基準未達成 ○: 有効 ×: 有効でないため見直す —: 中間アウトカム未設定(未測定) | |

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題3

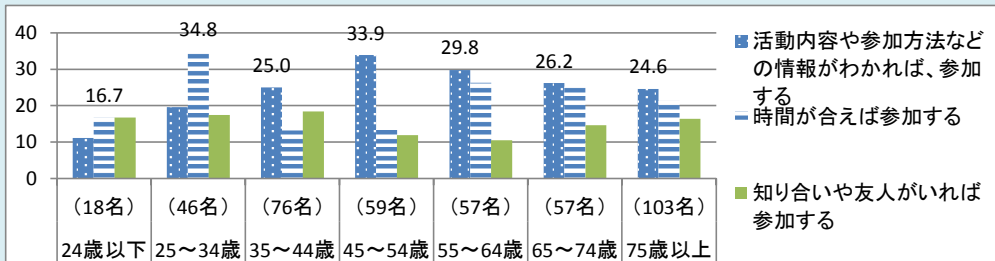
【みんながつながるまちづくりの推進】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間で念頭に設定＞

多様化・複雑化する地域課題の解決を図るべく、住民や地域団体、企業、NPO等様々な団体や幅広い年代の区民がまちに愛着と関心を持ち、つながりあうことで、豊かなコミュニティが醸成され、自らの地域のことは自らの地域が決めるという意識のもと、相互に理解し信頼しあいながら協働するまちになる。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

- ・地域活動に参加したことがある区民の割合 23.3%（平成29年度 区民アンケート）
- ・（地域活動に参加していない区民を対象に）地域活動に参加していない理由（ " " ）
 - 「時間の都合などにより参加できていない」区民の割合 23.3%
 - 「参加方法がわからない」区民の割合 7.2%
 - 「どんな活動をしているかわからないから」区民の割合 15.4%



- 【福祉】平成27年と平成12年の東住吉区の高齢者の人口を比較すると、前期高齢者約1.1倍、後期高齢者約1.7倍に増。平成27年と平成12年の高齢夫婦世帯数・高齢単身世帯数を比較すると高齢夫婦世帯約1.1倍、高齢単身世帯約1.5倍に増。
- ・日常生活で困ったとき、何らかの助けを望んでいる区民の割合 56.2%（東住吉区内での交流・ボランティア活動に関する調査（H26.7実施））
 - ・有償でも無償でもどちらでもよいのでボランティアに助けてほしいと思う区民の割合 45.4%（ " " ）
 - ・有償による助け合い活動「とんずみサポート」の認知度 11.9%（平成29年度第1回区民アンケート）

要因分析（現状・データから導かれる分析結果）＜めざすべき将来像と現状に差が生じる要因＞

- ・地域活動に参加する区民を増やすには、どの年代においても「活動内容や参加方法などの情報がわかれば参加する」という区民をいかに取り込むことができるかにかかっており、同区民を取り込むことにより、地域活動に参加する区民が5割近くに達することから、地域活動に参加してもいいと考えている区民の手にいかに情報が届けられるかが喫緊の課題である。
- ・高齢化の進行で、高齢者の中で、介護や支援を必要とする人の割合が大きくなる後期高齢者が増。家族による支援が受けにくい人や世帯が増。
- ・外に出て活動することがなくなり、地域とのつながりが少なく、家庭内に閉じこもっている高齢者など、支援を必要としながら、社会的に孤立し、適切な支援につながっていない人々が多い。
- ・日常生活での「困りごと」に対し、何らかの手助けを必要としている人が多数いる。
- ・日常生活で「困っていること」を解消する仕組みを構築したが、認知度がまだまだ低い。

課題<上記要因を解消するために必要なこと>

- ・多様化し、複雑化する地域課題を解決し、まちの活力・魅力を向上させるためには、行政だけでなく、より多くの区民や様々な活動主体のまちづくり活動への参画が欠かせず、まちへの関心・愛着を高め、まちづくり活動への参画を促すべく、地域活動に関する効果的な発信や交流の場の提供等を行う。
- ・高齢化がいつそう進行し、高齢夫婦や高齢単身世帯が増えていることから、地域での見守りや支えあいの活動を一層推進していく必要がある。
- ・身近なところで気兼ねなく相談でき、必要な支援に的確につながるしくみを確立していくことが求められる。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

- 【校区等地域を越えたまちづくり】「校区等地域を越えたまちづくりに関する活動が、地域団体や市民、NPO、企業など様々な活動主体の連携・協働により進められていると感じている区民の割合」について目標値を上回っており、引続き区民フェスティバル等地域を超えたイベント等への様々な活動主体の連携・協働を進めていく。
- 【地域福祉】「とんずみサポート」「高齢者食事サービス（14地域）」の減少は、ニーズはあるもそれに十分対応できていないことが原因であり、「要援護者名簿」については地域での見守り活動での活用状況の検証が必要であると分析している。これらは地域福祉の担い手の発掘・育成が進んでいない点に起因していることから、「認知症高齢者等徘徊者の保護に向けたメール配信」の登録事業者によるネットワークの構築や今年度初めて実施し好評であった「地域福祉映画会」の活用による地域福祉活動の必要性PR等を積極的に展開し、新たな地域福祉の担い手の発掘・育成に努める。

めざす成果及び戦略 3-1 【東住吉つながりプログラムの充実】

| | | |
|----|----------------------|----------------|
| 計画 | めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定> | 戦略<中期的な取組の方向性> |
| | アウトカム<めざす状態を数値化した指標> | |

| | | | | | |
|------|-----------------|-----|------------------------------------|-------------------|---|
| 自己評価 | 戦略のアウトカムに対する有効性 | ア | ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す | 課題 ※有効性が「イ」の場合は必須 | |
| | アウトカムの達成状況 | 前年度 | 個別 | 全体 | |
| | 戦略の進捗状況 | b | a:順調 b:順調でない | | 今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須 地域住民による支えあい活動「とんずみサポート」に見られる「依頼会員が増加しているが協力会員不足等により活動件数が減少」という状況からも、地域福祉活動へ関心を高め、支援者を増やしていく取り組みを強化する。 |

具体的取組 3-1-1 【区民相互の交流活動へのサポート】

| | | | | | | | |
|--------|--|---|--|-------|---------|-------|---------|
| | | 28決算額 | 6,790千円 | 29予算額 | 6,790千円 | 30予算額 | 6,673千円 |
| 計画 | 取組内容 | 業績目標 (中間アウトカム) | | | | | |
| | 様々な地域団体や企業等の参画のもと地域ニーズに対応した手法で事業を実施し、区民相互の交流活動をサポートする。 | ①参加者アンケートで「次も参加したい」と答えた割合:60%以上 【撤退基準】 上記目標の割合が40%未満の場合は、事業を再構築する。 | | | | | |
| 計画 | 取組実績 | 前年度までの実績 | | | | | |
| | ・区民フェスティバルの実施(10月) ・区民スポーツイベント等の開催(4～3月) ・区文化祭の開催(12月) | ・区民フェスティバルの実施(10月) 参画団体数 36団体(H24)、52団体(H25)、53団体(H26) 62団体(H27)、62団体(H28)、雨天中止(H29) ・区民スポーツイベント等の開催(4～3月) ・区文化祭の開催(12月) | | | | | |
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | ①(i) | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | - | ○:有効 ×:有効でないため取組を見直す -:中間アウトカム未設定(未測定) | | | | |
| 自己評価 | 取組実績 | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | | |
| | 業績目標の達成状況 | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | | |
| 自己評価 | 戦略に対する取組の有効性 | ○ | ○:有効 ×:有効でないため見直す -:中間アウトカム未設定(未測定) | | | | |

| 具体的取組 3-1-2 【あらゆる世代が参加する生涯学習活動の推進】 | | 28決算額 | 4,356千円 | 29予算額 | 4,002千円 | 30予算額 | 3,518千円 | |
|------------------------------------|--------------|---|--|-------|---------|-------|---------------|--------------------------------------|
| 計画 | 取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> 子育て世代も参加しやすくなるよう、一時保育付や子ども・親子向けの区主催生涯学習講座を実施 区内の生涯学習関連施設が持つ特性を活用し、次世代を担う子どもたちの学びやまちづくり活動に関わるきっかけづくりイベント(のびのびワクワク体験広場)を実施(11月) 区民が専門的な知識を学び幅広い学習ができるよう、区内大学等と共催で講座を実施(8月) 生涯スポーツの振興に資するため、区内の市立小・中学校の体育施設を学校教育に支障のない範囲で地域に開放(20校) | | | | | 業績目標(中間アウトカム) | ①区主催の講座において「次も参加したい」と答えた参加者の割合:70%以上 |
| | 業績目標の達成状況 | ①(i) | ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成 | | | | | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| 中間振り返り | 戦略に対する取組の有効性 | - | ○:有効 ×:有効でないため取組を見直す -:中間アウトカム未設定(未測定) | | | | | |
| 自己評価 | 取組実績 | <ul style="list-style-type: none"> 一時保育付の講座(8月)、親子で参加できる講座(8月)、小学生向け講座(7・3月/2回)を実施 のびのびワクワク体験広場を実施(11月/1回)。 14小学校生涯学習ルームにおいて、地域や学校・PTAと連携した講座や子ども向けの催しなどを開催(地域連携支援事業:31講座120回) 学校体育施設開放(20校) | | | | | 課題 | ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| | 業績目標の達成状況 | ①(i) | ・参加者アンケートで「次も参加したい」と答えた割合(91.8%) | | | | | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| 自己評価 | 戦略に対する取組の有効性 | ○ | ○:有効 ×:有効でないため見直す -:中間アウトカム未設定(未測定) | | | | | |

| 具体的取組 3-1-3 【子育て支援の推進】(再掲) | | 28決算額 | 14,294千円 | 29予算額 | 12,119千円 | 30予算額 | 11,856千円 | |
|----------------------------|--------------|--|--|-------|----------|-------|---------------|--|
| 計画 | 取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> 東住吉区子育て支援連絡会との協働による子育て施策の展開及び情報提供を行う。 東住吉区子育てOHえんフェスタの開催(年1回) 東住吉区子育てファミリー運動会(年1回) OHえん情報誌の作成・配布(毎月) 保存版の作成年間 約1500部 区内幼稚園・保育園・保育所・認定こども園・小学校の職員との学習会 乳幼児健診時に子育てOHえん情報保存版の配布や区社協配信のOHえんメールの周知などタイムリーな情報提供を行い、サービスの利用を促進。 子育て相談・訪問によるサービス 利用者支援専門員等による保育所資源やサービスの利用に関する相談・情報提供の拡充 3名の家庭児童相談員による養育者への相談体制の充実と虐待の予防と早期発見のための取組の強化 家庭での保育が一時的に困難になった乳幼児に対する、保育所等の実施施設における日中一時預かり(3ヶ所) 地域親子サロンを活用した地域妊産婦教室の開催 | | | | | 業績目標(中間アウトカム) | ①東住吉区子育てOHえんフェスタの開催時に実施するアンケート調査による満足度:95%以上 |
| | 業績目標の達成状況 | ①(i) | ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成 | | | | | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| 中間振り返り | 戦略に対する取組の有効性 | ○ | ○:有効 ×:有効でないため取組を見直す -:中間アウトカム未設定(未測定) | | | | | |
| 自己評価 | 取組実績 | <ul style="list-style-type: none"> 東住吉区子育てOHえんフェスタ参加人数増、約860名。参加関係機関拡大し新コーナー、新ステージ登場。 OHえん情報誌の配架先を拡大し印刷数も増。 区広報誌で子育てマップ発行(H30年8月) 利用者支援専門員による出張相談実施。 | | | | | 課題 | ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| | 業績目標の達成状況 | ①(i) | 東住吉区子育てOHえんフェスタ開催時に実施するアンケート調査による満足度95% | | | | | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| 自己評価 | 戦略に対する取組の有効性 | ○ | ○:有効 ×:有効でないため見直す -:中間アウトカム未設定(未測定) | | | | | |

| | | | | |
|---|--|--|--|----------------|
| 具体的取組3-1-4 【地域福祉における区民相互の助け合いへの支援】 | | 28決算額 19,076千円 | 29予算額 19,253千円 | 30予算額 11,630千円 |
| 計画 | 取組内容 | 業績目標（中間アウトカム） | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・くらしにおけるちょっとした困りごとについて、地域で気軽に支えあう、有償による助け合い活動「とんずみサポート」の周知・推進 ・地域住民のボランティア活動への参加促進に資する普及啓発 ・地域におけるボランティア活動のきっかけとなる交流（体験型の講座等） ・高齢者の健康増進と孤独感の解消、地域社会との交流を目的に、ボランティアが在宅のひとり暮らし高齢者や寝たきり高齢者等に、地域施設での会食等の世話を実施（14地域、総事業費の1/2補助）。 ・地域における平時の見守りと災害時の避難支援への備えを強化するため、「要援護者名簿」の更新、活用。 ・認知症高齢者等徘徊者の保護のため、行方不明者情報を協力者にメール配信するシステムの活用。 | ①協力会員の登録数を前年度比で10%増 ②東住吉区ボランティア・市民活動センターの新規登録者増加率:9%以上 ③高齢者食事サービスの利用者アンケートで「満足している」と答えた参加者の割合:70%以上 【撤退基準】 ①が前年度比10%増未満、②が9%未満、③が60%以下の場合は、事業を再構築する。 | | |
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | |
| | ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成 | 前年度までの実績 ・有償による助け合い活動「とんずみサポート」を運用 ・ボランティア活動への参加促進に関する啓発・研修を実施 ・高齢者食事サービスの実施(14地域) ・高齢者、障がい者(身体)を対象に「要援護者名簿」を作成 ・認知症高齢者等徘徊者を保護するシステムを運用 | | |
| 戦略に対する取組の有効性 | | - | ○:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定) | |

| | | | | |
|--------------|--|--|---|--|
| 計画 | 取組実績 | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・有償による助け合い活動「とんずみサポート」の利用状況 依頼件数 305件。前年: 324件(4.9%減) ・「高齢者食事サービス(14地域)」の利用状況、16,023人。前年 16,917人(5.28%減) ・「要援護者名簿」の提供状況:4,062件。前年2,471件(64.4%増) ・認知症高齢者等徘徊者の保護に向けた行方不明者情報のメール配信件数8件。前年4件(100%増) | 「とんずみサポート」の依頼会員登録は着実に増加、「高齢者食事サービス(14地域)」の利用対象者(65歳以上の独居高齢者等)も増加しているにもかかわらず、活動件数・利用参加者はともに増えていないことは、ボランティアの不足に原因がある。 | | |
| 自己評価 | 業績目標の達成状況 | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | |
| | ①協力会員の登録数を前年度比で12.28%増 ②東住吉区ボランティア・市民活動センターのボランティア(無償)の新規登録者増加率:3.4% ③高齢者食事サービスの利用者アンケートで「満足している」と答えた参加者の割合:94% | 今年度初めて実施した「地域福祉映画会」が好評で、地域福祉活動の必要性をPRする上で効果が期待できると分析していることから、新たな地域福祉の担い手発掘に資する取組への発展に努める。 | | |
| 戦略に対する取組の有効性 | | ○ | ○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定) | |

| | | | | |
|--|--|---|---|---------------|
| 具体的取組3-1-5 【はつらつ脳活性化元気アップの推進】(再掲) | | 28決算額 1,053千円 | 29予算額 1,187千円 | 30予算額 1,015千円 |
| 計画 | 取組内容 | 業績目標（中間アウトカム） | | |
| | 1)人材(リーダー)の育成 ①「はつらつ脳活性化元気アップリーダー養成講座」の開催 ・自分の健康、地域を元気にする意識啓発と技術取得のための講座開催(年1回、8回コース600名受講) 2)リーダー活動の拡充 ①「はつらつ脳活性化元気アップ講座」の開催 ・リーダーが中心となり、各地域で健康づくりから認知症予防の講座開催 ・4地域包括圏域での講座を開催し、地域住民の交流の輪を広げ、顔が見える関係づくりも行い、災害への平常時の活動に繋げる ②多世代交流の実施 ・高齢者や認知症に対する理解を深め、地域支援のしくみづくりの手法として、社協、包括、学校医、キャラバンメイトとリーダーが連携し、小学5年生に、講話や語り部、昔の遊びの体験学習を実施(1~2校) ・育成した子どもたちが夏休みや冬休みの同講座に参加、交流(1~2ヶ所) | 1)・リーダー育成数 20名 2)リーダー活動の拡充 ①・講座参加者の満足度 60%以上 ②・小学校開催時のリーダー等の満足度 60%以上 ・育成した子どもたちが同講座で交流(1~2か所) 【撤退基準】 1)10名以下かつ50%以下の場合は、事業を再構築する。 2)リーダー活動の拡充。 ①の満足度30%かつ②の満足度30%以下の場合、事業を再構築する。 | | |
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | |
| | ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成 | 前年度までの実績 ◎はつらつ脳活性化元気アップリーダー養成講座 ・リーダーとして活動している人は105名 ◎はつらつ脳活性化元気アップ講座(H26.5から毎年開催) ◎東住吉区オレンジキッズ(認知症キッズサポーター)養成講座 北田辺小学校、湯里小学校で声かけ体験型講座を開催 | | |
| 戦略に対する取組の有効性 | | ○ | ○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定) | |

| | | | | |
|--------------|---|--|---|--|
| 計画 | 取組実績 | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・はつらつ脳活性化元気アップリーダー養成講座 8回開催48名が修了 ・はつらつ脳活性化元気アップ講座実施 ・東住吉区オレンジキッズ(認知症キッズサポーター)養成講座(北田辺・湯里)時、リーダーが協力・支援を実施 | ◎はつらつ脳活性化元気アップ講座(H26.5から毎年開催) ◎東住吉区オレンジキッズ(認知症キッズサポーター)養成講座 北田辺小学校、湯里小学校で声かけ体験型講座を開催 | | |
| 自己評価 | 業績目標の達成状況 | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | |
| | 1)・リーダー育成数 48名 2)リーダー活動の拡充 ①・講座参加者の満足度 94% ②・小学校開催時のリーダー等の満足度 92% ・育成した子どもたちが同講座で交流:2か所 | ①(i) | | |
| 戦略に対する取組の有効性 | | ○ | ○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定) | |

めざす成果及び戦略 3-2 【自律的な地域社会の支援】

| | | |
|----|---|--|
| 計画 | めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定> 小学校区を単位とした14地域において、民主的で開かれた組織運営と会計の透明性を確保しながら、様々な活動主体が参画して地域のまちづくり活動を行う地域活動協議会が、自律的・継続的に地域運営を進めている。 | 戦略<中期的な取組の方向性> ・地域活動の核となる地域活動協議会について、地域ごとに特性のあるまちづくり活動を自主的に運営することができるよう、地域の実情やニーズにあった支援を行う。具体的には、自律的で継続的な運営を行うため、地域資源を活かしながら、自主財源の創出や確保に取り組んでいく。また、課題を抱えている地域を重点を置き、全体的に底上げの支援へつなげる。 ・区民の関心を高めるため、地域活動協議会等により行われている地域の自主的なまちづくり活動に関する情報発信を強化するとともに、まちづくり活動に参加しやすい環境を整える。 |
| | アウトカム<めざす状態を数値化した指標> ・校区等地域において、さまざまな団体が集まって、地域の活動や地域課題について話し合うことが活発になっていると感じている区民の割合：平成32年度に50%以上 | |

| | | | | |
|---------|---|-----------------|------------------------------------|------------------------|
| 自己評価 | 戦略のアウトカムに対する有効性 | ア | ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す | 課題 ※有効性が「イ」の場合は必須 |
| | アウトカムの達成状況 | 前年度 | 個別 | 全体 |
| | 校区等地域において、さまざまな団体が集まって、地域の活動や地域課題について話し合うことが活発になっていると感じている区民の割合：64.4% | 22.4% | A | A |
| | | | | |
| | A：順調 B：順調でない | | | 今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須 |
| 戦略の進捗状況 | b | a：順調 b：順調でない | | |

具体的取組 3-2-1 【地域の自主的なまちづくり活動への支援】

28決算額 41,737千円 29予算額 41,755千円 30予算額 37,430千円

| | | |
|----|--|--|
| 計画 | 取組内容 | 業績目標（中間アウトカム） |
| | ・地域活動協議会への補助金にかかる活動内容、申請額・交付額・精算額の、区ホームページでの公表 ・地域のまちづくりについて専門的知識のある事業者（中間支援組織）による地域活動協議会への支援（14地域） 地域の実情やニーズに合わせた研修（広報等）の実施 地域の担い手の知識・技術の習得・向上の促進策の実施 新たな地域活動の担い手の発掘、連携やスキルの継承 等 ・他地域との情報交換の場の設定 等 ・地域活動協議会への連絡会議の開催（11回） | ①「地域活動協議会」を知っている区民の割合：H30年度 35%以上 ②中間支援組織により課題やニーズに合わせた支援を受けていると感じる地域の割合：H30年度 80%以上 【撤退基準】 ・「地域活動協議会」を知っている区民の割合平成30年度35%未満であれば、事業を再構築する。 ・中間支援組織により課題やニーズに合わせた支援を受けていると感じる割合平成30年度50%未満であれば事業を再構築する。 前年度までの実績 ・地域活動協議会の活動内容や補助金を区ホームページで公表。 ・中間支援組織による、地域への個別訪問相談支援の実施。 ・地域活動協議会への連絡会議の開催（11回） |
| | | |

| | | | |
|--------|--|------|--|
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | ①(i) | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| | ①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退基準未達成 | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | - | ○：有効 ×：有効でないため取組を見直す —：中間アウトカム未設定(未測定) |

| | | | |
|------|--|---|---|
| 自己評価 | 取組実績 | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | |
| | 地域ニーズに合わせ、会計研修やブログ開設支援等を行った。ブログ開設の支援をし、ボランティア募集などの担い手発掘や技術の向上につなげた。 地域連絡会議の開催（計11回） | 地域ごとの特性や課題を地活協の各構成団体にまで周知し、共有を深める必要がある。 | |
| | 業績目標の達成状況 ①「地域活動協議会」を知っている区民の割合：40.6% ②中間支援組織により課題やニーズに合わせた支援を受けていると感じる地域の割合：75.3% | ②(i) 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 各地域毎の現況や課題を洗い出せるようデータ資料を提供し、説明を行う。 | |
| | ①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退基準未達成 | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○ | ○：有効 ×：有効でないため見直す —：中間アウトカム未設定(未測定) |

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題4

【まちづくりの推進に向けた情報資産の共有化】

| | |
|------------------|---|
| | <p>めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間で念頭に設定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域に必要な資源、さまざまな活動主体の情報をつかみ、紙や電子媒体で、区職員がまちのセールスマンとして積極的に情報発信する。 ・地域内や他地域の情報を区民が主体的に知ることができる環境にある。 |
| | <p>現状（課題設定の根拠となる現状・データ）</p> |
| 計 画 | <ul style="list-style-type: none"> ・区取組に関する情報伝達（H26・27・28「各区に共通する区政運営に関する事項についてのアンケート調査結果」） 肯定的意見 H26 29.2%（市平均32.6%）→H28 29.5%（市平均28.6%） ・区役所の取組情報の入手先（平成27年第1回区民アンケート） <ul style="list-style-type: none"> 広報紙 58.4%（うち44歳以下43.8%、45歳以上62.7%） ロコミ 16.8%（うち " 22.9%、 " 15.1%） 掲示板 11.7%（うち " 14.6%、 " 10.8%） ・広報紙を気軽に手にとる方法（平成26年第1回区民アンケート） <ul style="list-style-type: none"> もっと手に取りやすい場所に置く33.6%（うち44歳以下50.0%、45歳以上29.5%） ・区の広報紙の入手方法（平成28年第1回区民アンケート） <ul style="list-style-type: none"> 新聞折込 47.0%（うち44歳以下24.4%、45歳以上54.7%） 自宅送付 16.6%（うち " 22.8%、 " 14.5%） 広報サポーター・駅 8.2%（うち " 7.1%、 " 8.6%） 未入手 25.8%（うち " 44.9%、 " 19.3%） ・広報紙を読んだことがある割合（平成29年第1回区民アンケート） <ul style="list-style-type: none"> 毎月読んでいる 25.5%（うち44歳以下10.0%、45歳以上31.0%） 毎月ではないが読んだことはある 42.1%（うち " 31.3%、 " 44.5%） ・子育てコーナーの新設、広報紙のレイアウト変更について（平成29年第1回区民アンケート） <ul style="list-style-type: none"> 読みやすい、読みやすくなった（24.8%）、読みにくい、読みにくくなった（1.9%）、あまり変わらない、わからない（65.8%） ※44歳以下の子育て世帯の「読みやすい、読みやすくなった」割合（34.8%） ・区役所からの必要な情報を入力する希望方法（広報紙やHPを除く）（平成28年第1回区民アンケート） <ul style="list-style-type: none"> 44歳以下 1位 LINE 35.4% 2位 twitter 18.9% 3位 Facebook 17.3% ・H29.4から配信開始した区の公式「LINE」の認知度（平成29年第1回区民アンケート） <ul style="list-style-type: none"> 知っており、登録している（1.1%）、知っているが、登録はしていない（7.3%）、知らない（87.5%） ・子育てに役立つ情報が一つにまとまったWEBサイト「東住吉区子育て応援ナビ」の認知度（平成28年第1回区民アンケート） <ul style="list-style-type: none"> 44歳以下 知らない 80.3% ・広報紙を除くSNSやTV・新聞などの積極的な情報発信の方法について（平成29年第1回区民アンケート） <ul style="list-style-type: none"> 様々な媒体から情報を入力しやすく、情報発信の方法が工夫されている 25.5%（うち44歳以下34.4%、45歳以上21.7%） 全体的に発信や情報はまだまだ少ないが、情報発信の方法は工夫されている 33.5%（うち " 40.3%、 " 29.6%） 情報発信の方法が、工夫されているとは思わない 19.0%（うち " 21.5%、 " 18.1%） |
| | <p>要因分析（現状・データから導かれる分析結果）＜めざすべき将来像と現状に差が生じる要因＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで、広報紙の魅力向上のため、平成25年度に区民ボランティア記者制度を立ち上げ、区民自らが取材、執筆した記事を定期的に掲載した。また、平成24年度にツイッターを開設し、区ホームページの内容を周知し誘導する取組を実施した。 ・しかし、依然として、区取組に関する情報伝達に対する肯定的意見は約3割にとどまり、区政会議でも常に情報発信の強化が意見されている。 ・区内の情報源として、広報紙を挙げる区民はどの年代も多いものの、実際に広報紙を入力して「いない」区民は、45歳以上で約2割、44歳以下では約5割にのぼる。 ・また、広報紙の入手方法も購読状況も求める記事も、区役所からの情報の入手方法そのものも年代によって大きく異なる。 |
| | <p>課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理的に広報紙を届けるために、今後、より積極的に区として、年代に応じた入手先の開拓を行う必要がある。 ・広報紙に関心が無い区民、特に子育て層が読む頻度を上げるためにも、子育て層の区民が手に取り読みたいと思う記事を掲載するなど、魅力ある紙面に改良する必要がある。 ・SNSの発達により社会情勢は大きく変わっている現状を踏まえ、年代に即した広報戦略を立てる必要があり、各種媒体の情報を相互に連携させるクロスメディア手法を用い情報の充実に取り組む。その一つとして、本年4月に配信開始した「LINE」の認知度を向上させ登録数を増やすとともに、子育て応援ナビや区ホームページへ連携させるような「LINE」情報を発信する。 |
| 取 組 命 題 | <p>戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区政情報の発信について、区広報紙では区民アンケート結果に基づき、子どもの写真掲載コーナーや都市景観コーナー等を新設し、区広報紙のリニューアルをしたほか、区の各種公式SNSなど、様々な発信媒体を多様化し取り組んでいるものの、区政に対し関心が高まったと感じる割合が増加に繋がらず、アンケート結果では関心度は低く目標値に至らなかった。その反面、近年、頻繁に発生する災害で意識が高くなっているため、直近のアンケートでは防災情報や健康情報の要望が高い結果となっていることから、今後はこれらの情報も積極的に発信していくとともに、引き続き区民ニーズを採取していく必要がある。 |

めざす成果及び戦略 4-1 【区政情報の広報戦略の展開】

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|--|------------------------------------|--|--|-----------------|---|------------------------------------|--|------------|--|-----|-------|---------------------|-------|--------|-----|--------------|--|--|--|---------|---|-----------------|
| 計画 | めざす状態<概ね3～5年間で念頭に設定> | | 戦略<中期的な取組の方向性> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 地域に密着した情報を収集・発信し、区の広報媒体(広報紙やホームページ等)が、区民から愛着を持たれている。 区職員一人ひとりがまちのセールスマンとして、東住吉の魅力発信を行うために必要な広報スキルや意識が身に付いている。 | | <ul style="list-style-type: none"> 広報紙をより魅力的な内容とし、手に取りやすい環境を整える。 区の公式「LINE」の認知度を向上させ、紙媒体とWeb情報、SNSを相互に連携させ、子育て層に必要な情報を届ける。 区民だけでなく、区外の方に対しても区の魅力を発信し、区の認知度を上げる。 機能的かつ効果的な広報活動に関する区職員の意識を向上させ、各課の情報受発信力を強化する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自己評価 | アウトカム<めざす状態を数値化した指標> | | 課題 ※有効性が「イ」の場合は必須 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 区役所の情報が伝わりやすくなったと感じる区民の割合:平成32年度に60%以上 | | <table border="1"> <tr> <td>戦略のアウトカムに対する有効性</td> <td>ア</td> <td colspan="2">ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す</td> </tr> <tr> <td>アウトカムの達成状況</td> <td></td> <td>前年度</td> <td>個別 全体</td> </tr> <tr> <td>区の情報伝わりやすくなったと感じる割合</td> <td>41.6%</td> <td>38.60%</td> <td>A A</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">A:順調 B:順調でない</td> </tr> <tr> <td>戦略の進捗状況</td> <td>b</td> <td colspan="2">a:順調 b:順調でない</td> </tr> </table> | | 戦略のアウトカムに対する有効性 | ア | ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す | | アウトカムの達成状況 | | 前年度 | 個別 全体 | 区の情報伝わりやすくなったと感じる割合 | 41.6% | 38.60% | A A | A:順調 B:順調でない | | | | 戦略の進捗状況 | b | a:順調 b:順調でない |
| 戦略のアウトカムに対する有効性 | ア | ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アウトカムの達成状況 | | 前年度 | 個別 全体 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区の情報伝わりやすくなったと感じる割合 | 41.6% | 38.60% | A A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A:順調 B:順調でない | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 戦略の進捗状況 | b | a:順調 b:順調でない | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

具体的取組4-1-1 【区の広報媒体及び内容の充実】(再掲)

| | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|---|-------|----------|-------|----------|--|--|--|--|--|
| | | 28決算額 | 13,763千円 | 29予算額 | 15,809千円 | 30予算額 | 16,329千円 | | | | | |
| 計画 | 区の特長や地域実情に応じた施策・事業・イベント等があると感じる区民の割合 | | 業績目標(中間アウトカム) | | | | | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 子育て層が見たいと思う情報の発信強化を目指した、区広報紙のリニューアル 子育て層が広報紙を手に取りやすい配架場所の新規開拓(10箇所以上) 子育て層に向けた情報発信サイト「LINE」の登録者数の増加 区広報紙やホームページと、区の公式SNS(LINE、facebook、instagramなど)を連携させ、相互の情報をクロスメディア手法により効果的に発信(各媒体から相互に情報を利用することが可能) | | <ul style="list-style-type: none"> ①区広報紙がリニューアルされ、区政に対し関心が高まったと感じる割合:H30年度 50% ②子育て層が、広報紙が読みやすくなったと感じる割合:H30年度 40%【撤退基準】 ①が30%及び②が20%をともに下回った場合は、事業を再構築する。 | | | | | | | | | |
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | | ①(i) | | | | | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成 | | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | | | | | | |
| 自己評価 | 戦略に対する取組の有効性 | | - | | | | | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○:有効 ×:有効でないため取組を見直す -:中間アウトカム未設定(未測定) | | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | | | | | | |
| 自己評価 | 取組実績 | | <ul style="list-style-type: none"> 子どもの写真掲載コーナーや防災防犯コーナーなど、新たなコーナーを設置し、広報紙のリニューアルを実施 広報サポーター新規34箇所開拓 区公式LINEのチラシをイベント時等に積極的に配布し、登録者数が375名の増 広報紙に記事内に二次元コードを掲載するとともに、各種SNSにおいて詳細な情報が掲載されたWEB上のURLを掲載した | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 区民アンケート結果を基に、子どもの写真掲載コーナーなどを新設し区広報紙のリニューアルを実施したが、区政に関心が高まったと感じる割合が達成できなかった。引き続き、区民が必要とする情報や関心が高い情報を的確に把握し、見極める必要がある。 | | | | |
| | 業績目標の達成状況 | | ②(ii) | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 区広報紙がリニューアルされ、区政に関心が高まったと感じる割合 26.5% 子育て層が、広報紙が読みやすくなったと感じる割合 62.3% | | <ul style="list-style-type: none"> ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成 | | | | | | | | | | |
| 戦略に対する取組の有効性 | | ○ | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○:有効 ×:有効でないため見直す -:中間アウトカム未設定(未測定) | | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | | | | | | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 区広報紙を手に取り見たいと思えるようなレイアウトや、面白いと思える企画を取り入れ、広報紙を身近に感じてもらえるよう作成していくほか、読みやすく認識してもらえるような記事となるよう掲載内容を整理する。 | | | | | | | | | | |

めざす成果及び戦略 4-2 【地域における情報共有の促進】

| | | | | |
|------|--|---|---|-------|
| 計画 | めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> | | 戦略<中期的な取組の方向性> | |
| | 様々な地域課題や課題解決のための取組内容に関する情報が地域内や地域間において共有されることにより、地域内や地域間のネットワークが拡充し、東住吉全体の地域力が向上する。 | | 様々な地域課題や課題解決のための取組内容に関する情報を地域内や地域間で共有できる場を設ける。 | |
| 自己評価 | アウトカム<めざす状態を数値化した指標> | | 課題 ※有効性が「イ」の場合は必須 | |
| | ・校区等地域を越えたまちづくりに関する活動が、地域団体や市民、NPO、企業など様々な活動主体の連携・協働により進められていると感じている区民の割合:平成32年度に50%以上 ・身近な地域の中で、「声かけ」、「見守り」、「助け合い」、「支え合い」を実感している区民の割合:平成32年度までに60%以上 | | 今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須 地域住民による支えあい活動「とんずみサポート」に見られる「依頼会員は増加しているが協力会員不足等により活動件数が減少」という状況からも、支援者増につながる情報発信・情報共有の取り組みを強化する。 | |
| 自己評価 | 戦略のアウトカムに対する有効性 | ア | ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す | |
| | アウトカムの達成状況 | | 前年度 | 個別 全体 |
| | 戦略の進捗状況 | ア | a:順調 b:順調でない | |

具体的取組4-2-1 【地域の自主的なまちづくり活動への支援】(再掲)

| | | | | | | | |
|--------|--|--|--|-------|----------|-------|----------|
| | | 28決算額 | 41,737千円 | 29予算額 | 41,755千円 | 30予算額 | 37,430千円 |
| 計画 | 取組内容 | 業績目標(中間アウトカム) | | | | | |
| | ・地域活動協議会への補助金にかかる活動内容、申請額・交付額・精算額の、区ホームページでの公表 ・地域のまちづくりについて専門的知識のある事業者(中間支援組織)による地域活動協議会への支援(14地域) 地域の実情やニーズに合わせた研修(広報等)の実施 地域の担い手の知識・技術の習得・向上の促進策の実施 新たな地域活動の担い手の発掘、連携やスキルの継承 等 ・他地域との情報交換の場の設定 等 ・地域活動協議会への連絡会議の開催(11回) | ①「地域活動協議会」を知っている区民の割合:H30年度 35%以上 ②中間支援組織により課題やニーズに合わせた支援を受けていると感じる地域の割合:H30年度 80%以上 【撤退基準】 ・「地域活動協議会」を知っている区民の割合平成30年度35%未満であれば、事業を再構築する。 ・中間支援組織により課題やニーズに合わせた支援を受けていると感じる割合平成30年度50%未満であれば事業を再構築する。 | | | | | |
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | ①(i) | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | - | ○:有効 ×:有効でないため取組を見直す -:中間アウトカム未設定(未測定) | | | | |
| 自己評価 | 取組実績 | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | | |
| | 業績目標の達成状況 | ②(i) | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○ | ○:有効 ×:有効でないため見直す -:中間アウトカム未設定(未測定) | | | | |

具体的取組4-2-2 【地域の防災力強化(共助)】(再掲)

28決算額 1,798千円 29予算額 2,533千円 30予算額 1,242千円

| | | |
|--------|--|--|
| 計画 | 取組内容 | 業績目標 (中間アウトカム) |
| | 自主防災組織の機能強化を図る取組 ・地域の自主的、自律的な防災訓練の支援(14地域) ・地域防災リーダー防災学習の実施 ・地区防災計画の策定・改訂に向けた支援(14地域) ・地域防災活動への女性の参画促進に向けた支援 ・各小中学校の「防災・減災教育カリキュラム」に基づく防災研修・防災訓練等の支援(20校) ・事業所等に対する災害への備えと地域との連携の呼びかけ ・各地域で自主的、自律的に取り組まれている防災訓練等に関する情報の発信 | ①有事の際にどのように行動すべきか理解している地域防災リーダーの割合:H30年度 70%以上 【撤退基準】 上記目標が50%以下であれば、事業を再構築する。 前年度までの実績 ・地域等での防災訓練等の実施(14地域) ・地域防災リーダー・女性防火クラブ合同研修の実施(5月) ・地区防災計画策定に向けた働きかけ・策定支援(14地域) ・事業所と地域との連携(災害時協力事業所登録制度の改正・地域へ情報提供) |
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | ①(i) |
| | ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成 | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定) |
| 自己評価 | 取組実績 | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| | ・地域等での防災訓練等の支援(14地域) ・地域防災リーダー・女性防火クラブ合同研修の実施(5月) ・地区防災計画策定に向けた働きかけ・策定支援(策定済を除く6地域) ・各小中学校の防災研修・防災訓練等の支援(11校) ・防災訓練等に関する情報の他地域との共有化(防災リーダー会議等での共有化) | |
| | 業績目標の達成状況 | ①(i) |
| | 有事の際にどのように行動すべきか理解している地域防災リーダーの割合:88.4% ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成 | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定) |

具体的取組4-2-3 【地域福祉における区民相互の助け合いへの支援】(再掲)

28決算額 19,076千円 29予算額 19,253千円 30予算額 11,630千円

| | | |
|--------|---|---|
| 計画 | 取組内容 | 業績目標 (中間アウトカム) |
| | ・くらしにおけるちょっとした困りごとについて、地域で気軽に支えあふ、有償による助け合い活動「とんずみサポート」の周知・推進 ・地域住民のボランティア活動への参加促進に資する普及啓発 ・地域におけるボランティア活動のきっかけとなる交流(体験型の講座等) ・高齢者の健康増進と孤独感の解消、地域社会との交流を目的に、ボランティアが在宅のひとり暮らし高齢者や寝たきりの高齢者等に、地域施設での会食等の世話を実施(14地域、総事業費の1/2補助) ・地域における平時の見守りと災害時の避難支援への備えを強化するため、「要援護者名簿」を策定・活用(平成27年度から3年計画) ・認知症高齢者等徘徊者の保護のため、行方不明者情報を協力者にメール配信するシステムの活用。 | ①協力会員の登録数を前年度比で10%増 ②東住吉区ボランティア・市民活動センターのボランティア(無償)の新規登録者増加率:9%以上 ③高齢者食事サービスの利用者アンケートで「満足している」と答えた参加者の割合:70%以上 【撤退基準】 ①が前年度比10%増未満、②が9%未満、③が60%以下の場合は、事業を再構築する。 前年度までの実績 ・有償による助け合い活動「とんずみサポート」を運用 ・ボランティア活動への参加促進に関する啓発・研修を実施 ・高齢者食事サービスの実施(14地域) ・高齢者、障がい者(身体)を対象に「要援護者名簿」を作成 ・認知症高齢者等徘徊者を保護するシステムを運用 |
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | ①(i) |
| | ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成 | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| | 戦略に対する取組の有効性 | - ○:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定) |
| 自己評価 | 取組実績 | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| | ・有償による助け合い活動「とんずみサポート」の利用状況、4~1月の依頼件数245件。前年同月比:298件(17.78%減) ・「高齢者食事サービス(14地域)」の利用状況、〇〇人。前年同月比:12,243人(%減) ・「要援護者名簿」の提供状況、平成31年1月の提供件数 4062件。平成30年1月比: 2471件(64.38%増) ・認知症高齢者等徘徊者の保護に向けた行方不明者情報のメール配信、4~1月の配信件数 8件 前年同月比: 4件(100%増) | 「とんずみサポート」の依頼会員登録は着実に増加、「高齢者食事サービス(14地域)」の利用対象者(65歳以上の独居高齢者等)も増加しているにもかかわらず、活動件数・利用参加者はともに増えていないことは、ボランティアの不足に原因がある。 |
| | 業績目標の達成状況 | ②(i) |
| | ①協力会員の登録数を前年度比で12.28%増 ②東住吉区ボランティア・市民活動センターのボランティア(無償)の新規登録者増加率:3.4% ③高齢者食事サービスの利用者アンケートで「満足している」と答えた参加者の割合:94% ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成 | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定) |

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題5

【区民と共に創るまちづくりの推進】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間で念頭に設定＞

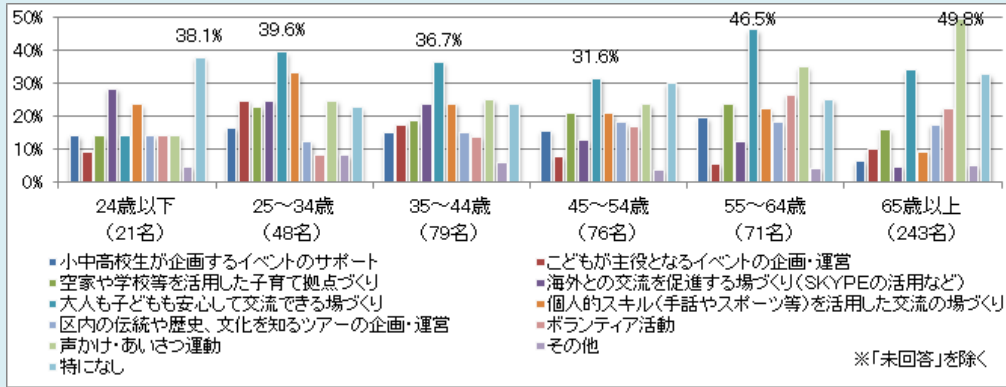
- ・区民の意見・要望・提言の聴取に努め、区の特性や地域実情に即した区政が運営される区民主体の自治を実現できている。
- ・身近な総合行政の拠点として区民から信頼される区役所をめざす。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

- H26・27「各区に共通する区政運営に関する事項についてのアンケート調査結果」
 - ・区政運営についての意見聴取 肯定的意見 H26 13.3%(市平均19.2%)→H28 29.0%(市平均32.4%)
 - ・企画段階からの意見聴取、協働 肯定的意見 H26 10.8%(市平均15.1%)→H28 26.5%(市平均27.8%)
 - ・取組に対する評価を受ける仕組 肯定的意見 H26 12.1%(市平均15.9%)→H28 18.1%(市平均20.6%)
 - ・相談・要望への対応 肯定的意見 H26 73.0%(市平均73.3%)→H28 79.2%(市平均73.5%)
- その他アンケート調査結果
 - ・区政会議の認知度 肯定的意見 20.3%(平成28年第3回区民アンケート)
 - ・東住吉区内での住みやすさ 肯定的意見 88.8%(平成28年第1回区民アンケート)
- 区民アンケートの年代別の有効回収率(平成28年第1回区民アンケート)

| | 24歳以下 | 25～34歳 | 35～44歳 | 45～54歳 | 55～64歳 | 65歳以上 | 合計 |
|-----------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|
| ① 配付総数 | 128 | 205 | 218 | 292 | 163 | 494 | 1,500 |
| ② 有効回収数 | 20 | 41 | 66 | 84 | 58 | 231 | 500 |
| ①/②有効回収率 | 15.6% | 20.0% | 30.3% | 28.8% | 35.6% | 46.8% | 33.3% |
| ③ WEB回収数 | 3 | 7 | 10 | 6 | 4 | 5 | 35 |
| ②/③WEB回収率 | 15.0% | 17.1% | 15.2% | 7.1% | 6.9% | 2.2% | 7.0% |

- 子どもたちの未来のために他の人と一緒にやってもいいと思うこと(平成28年第2回区民アンケート)



要因分析（現状・データから導かれる分析結果）＜めざすべき将来像と現状に差が生じる要因＞

- ・区政運営について、計画段階から区民との対話や協働により進められるとともに、多様な区民による評価がなされる場である区政会議は、多種多様な経歴や数々の実績を有する委員(公募を含む)から成り立っており、同会議での議論も活発になされているが、同会議の認知度はまだまだ低く、委員以外の区民と共有できているという状況とはいえない。
- ・区民アンケート制度では、若年層の回答率が他の年代と比較して低いことから、平成28年度からWEBでも回答できるようにしたが、依然として低い状況にある。
- ・「子どもたちの未来のために、あなた自身が他の人と一緒にやってもいいと思うこと」を区民アンケートで伺うと、約65%の区民が「何か」を一緒にやってもいいと考えていることが分かった。

課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞

- ・区民の区政への関心を高め、より一層区民の意見を反映した区政運営を実現するため、区政会議でなされた議論等を区の広報媒体等を通じて積極的に発信することが引き続き、必要であるとともに、新・東住吉区将来ビジョンの策定に向けた取り組みを充実、発展させる新たな区民参画型のしくみの構築が欠かせない。
- ・区民アンケートの回答率を上げるため、設問の表現内容やWEBを活用した回答方法の活用など、区民アンケートを引き続き、改良するとともに、必要とする対象者のニーズを的確に把握できる仕組みを構築する必要がある。
- ・より幅広い区民がまちづくり活動に主役となって関わるためには、既存の区民参画型のしくみによる活動を充実するほか、新たな区民参画型のしくみを構築する必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

「プロジェクトに参加した区民等の中で、区民が主体的に企画に取り組み、区役所は適切にサポートしてくれていると感じる参加者の割合」について目標を大幅に上回っている一方で、「事業等の企画・計画段階において、区民の意見や要望を反映していると思う区民の割合」や「事業等の終了時に意見を聴くなど、区民からの評価を受け、区政運営の改善につなげていると思う区民の割合」、「区政運営について区民の意見や要望を反映していると思う区民の割合」について上昇傾向であるものの目標値に達していない。区政運営について区民の意見や要望が反映されていると感じていただけるよう、区政会議等の情報の発信や区政運営により多くの方のご意見等を反映させる仕組みづくりの検討が必要である。

めざす成果及び戦略 5-1 【区民の意見を反映した区政運営の実現】

| | | |
|----|--|--|
| 計画 | めざす状態<概ね3～5年間で念頭に設定> | 戦略<中期的な取組の方向性> |
| | <ul style="list-style-type: none"> 区民の区政への関心を高め、区民の意見を反映した区政運営を行う。 区民が主役となるまちづくり活動が活発なまちになる。 | <ul style="list-style-type: none"> 区政会議での取組の認知度を高める。 新・東住吉区将来ビジョンの実現に向けた、新たな区民参画型のしくみを構築する。 区民ニーズを的確に把握できる仕組みを構築する。 |
| | アウトカム<めざす状態を数値化した指標> | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 事業等の企画・計画段階において、区民の意見や要望を反映していると思う区民の割合：平成32年度に60%以上 事業等の終了時に意見を聴くなど、区民からの評価を受け、区政運営の改善につなげていると思う区民の割合：平成32年度に60%以上 区政運営について区民の意見や要望を反映していると思う区民の割合：平成32年度に60%以上 | |

| | | | | |
|------|---|-------|------------------------------------|------------------------|
| 中期評価 | 戦略のアウトカムに対する有効性 | ア | ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す | 課題 ※有効性が「イ」の場合は必須 |
| | アウトカムの達成状況 | 前年度 | 個別 | 全体 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 事業等の企画・計画段階において、区民の意見や要望を反映していると思う区民の割合：33.4% 事業等の終了時に意見を聴くなど、区民からの評価を受け、区政運営の改善につなげていると思う区民の割合：40.5% 区政運営について区民の意見や要望を反映していると思う区民の割合：32.1% | 41.3% | B | B |
| | 戦略の進捗状況 | b | a：順調 b：順調でない | 今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須 |

具体的取組5-1-1 【区民等の参画と協働による区政運営】(再掲)

28決算額 3773千円 29予算額 1362千円 30予算額 575千円

| | | |
|----|--|---|
| 計画 | 取組内容 | 業績目標 (中間アウトカム) |
| | <ul style="list-style-type: none"> 区政会議の開催(本会議3回、2部会各2回) 広報媒体を活用した区政会議の意義や議事内容の区民への周知 新・東住吉区将来ビジョンの実現に向けた、区民が主役となるまちづくりプロジェクト(e-sumiなでしこ)のサポート(月1回) 大阪城南女子短期大学との包括連携会議(1回) 大学や企業等と連携した取組の促進 | プロジェクトに参加した区民等の中で、区民が主体的に企画に取り組み、区役所は適切にサポートしてくれていると感じる参加者の割合：H30年度 60%以上 【撤退基準】 上記目標が30%を下回った場合、事業を再構築する。 |
| | | 前年度までの実績 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 区政会議 H25：本会議2回、3部会各3回開催 H26：本会議4回、2部会各3回開催 H27：本会議3回、2部会各2回開催 H28：本会議4回開催 H29：本会議3回、2部会各2回開催予定 新将来ビジョン策定(H28) 大阪城南女子短期大学との包括連携協定の締結(H28.1)及び包括連携会議の開催(H28.6)(H29.7) |

| | | | |
|--------|--|------|--|
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | ①(i) | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 |
| | ①：目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③：撤退基準未達成 | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | - | ○：有効 ×：有効でないため取組を見直す —：中間アウトカム未設定(未測定) |

| | | | |
|------|---|---------------------------|---|
| 中期評価 | 取組実績 | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 区政会議の開催(本会議3回、2部会各2回実施) 区政会議の意義や議事内容の区民への周知(広報紙等) 区民が主役となるまちづくりプロジェクト(e-sumiなでしこ)のサポート(10回) 大阪城南女子短期大学との包括連携会議(1回) 大学や企業等との連携(城南女子短期大学・大阪市立大学・吉本興業) | | |
| | 業績目標の達成状況 | 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | |
| | プロジェクトに参加した区民等の中で、区民が主体的に企画に取り組み、区役所は適切にサポートしてくれていると感じる参加者の割合：90.9% | ①(i) | |
| | ①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退基準未達成 | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○ | ○：有効 ×：有効でないため見直す —：中間アウトカム未設定(未測定) |

具体的取組5-1-2 【アンケートの充実】(再掲)

| | | | | | | | |
|--------|--|--|---------|-------|--------|-------|---------|
| | | 28決算額 | 2,551千円 | 29予算額 | 3773千円 | 30予算額 | 2,100千円 |
| 計画 | 取組内容 | 業績目標 (中間アウトカム) | | | | | |
| | ・無作為抽出した区民1,500名に対するアンケート調査の実施 (3回、うち区役所執行分の2回はWEBでの回答も可) ・オンラインアンケートの活用 | アンケート調査の有効回収数 1回あたり 400名以上 | | | | | |
| | | 【撤退基準】 有効回収数がすべての回で300名を下回る場合は、事業を再構築する。 | | | | | |
| | | 前年度までの実績 | | | | | |
| | | ・無作為抽出した区民1,500名に対するアンケート(4回) ・企業・事業所アンケート(H28.3) | | | | | |
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | ①(i) | | | | | |
| | ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成 | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○:有効 ×:有効でないため取組を見直す -:中間アウトカム未設定(未測定) | | | | | |
| 自己評価 | 取組実績 | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | | |
| | 区民アンケート調査の有効回収数 第1回 平成30年8月24日～9月7日 582名 第2回 平成30年12月14日～平成31年1月7日 469名 子育て層向けアンケート 平成31年1月29日～2月15日 703名 | | | | | | |
| | 業績目標の達成状況 アンケート調査の有効回収数 1回あたり 584名 | ①(i) 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | | |
| | ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成 | | | | | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○:有効 ×:有効でないため見直す -:中間アウトカム未設定(未測定) | | | | | |

具体的取組5-1-3 【区の相談・調整機能の充実】(再掲)

| | | | | | | | |
|--------|---|--|--------|-------|--------|-------|--------|
| | | 28決算額 | 1458千円 | 29予算額 | 1428千円 | 30予算額 | 1215千円 |
| 計画 | 取組内容 | 業績目標 (中間アウトカム) | | | | | |
| | 区役所において、区民から相談や要望を受け付け、局、事業所などと連携し、迅速かつ適切に対応する。 ・市民の声:随時 ・法律相談(弁護士):月4回 ・法律相談(司法書士):月2回 ・税務・行政・不動産・就労相談:月1回 ・相続遺言帰化相談(行政書士):月1回 ・若者・女性の就労等トータルサポート事業:月1回 ・行政連絡調整会議及び行政連絡調整会議小会議の開催(隔月) | 過去1年間に、区役所に日常生活に関する相談や要望を行った区民のうち、区役所が区における市政の総合窓口として適切に対応したと思う区民の割合:75%以上 | | | | | |
| | | 【撤退基準】 上記目標が60%を下回る場合は、事業を再構築する。 | | | | | |
| | | 前年度までの実績 | | | | | |
| | 職員の対応力の向上に向けたスキルアップ研修の実施 (区政編 改革の柱2 IV-A①) 「東住吉おもてなしプロジェクト」を継続実施し、各課を横断した全職員の意識向上の取組を推進 | 市民の声(27年度237件)、法律相談(弁護士):月4回、法律相談(司法書士):月2回、税務・行政・不動産・就労相談:月1回、相続遺言帰化相談(行政書士):月1回。 行政連絡調整会議及び行政連絡調整会議小会議(各6回) 庁舎周辺清掃の実施【毎週水曜日、年1回秋頃(大阪マランクリーンアップ大作戦)】 (区役所職員の対応力向上に向けたスキルアップ研修(全6回) タウンウォッチング研修(全2回) | | | | | |
| 中間振り返り | 業績目標の達成状況 | ①(i) | | | | | |
| | ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退基準未達成 | 課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | - ○:有効 ×:有効でないため取組を見直す -:中間アウトカム未設定(未測定) | | | | | |
| 自己評価 | 取組実績 | 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | | |
| | タウンウォッチング研修や民間講師による職員力向上に向けたスキルアップ研修を実施するとともに、「東住吉おもてなしプロジェクト」を継続実施し、各課を横断した全職員の意識向上を推進した。 「市政改革の基本的な考え方を踏まえ、仕事のやり方を変えることを意識している職員の割合」89.9% | 継続した取組として、職員一人ひとりが「おもてなしプロジェクト」の趣旨を理解し、区民に分かりやすく丁寧な対応を意識して行動する必要がある。 区役所が適切に対応したと感じる割合が、前回調査結果より低くなっており、なお且つ目標達成が出来なかったことから、職員一人ひとりが分かりやすく丁寧な対応を引き続き行う必要がある。 | | | | | |
| | ・市民の声(30年度110件) ・法律相談(弁護士):年間47回実施 ・法律相談(司法書士):年間21回実施 ・税務・行政・不動産・就労相談:年間32回実施 ・相続遺言帰化相談(行政書士):年間11回実施 ・若者・女性の就労等トータルサポート事業:12回実施 ・行政連絡調整会議及び行政連絡調整会議小会議の開催:10回 | | | | | | |
| | 業績目標の達成状況 区役所が、相談や問い合わせ内容について適切に対応したと思いう区民の割合:75%以上 (H30:69.2%) | ②(ii) 改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 | | | | | |
| | ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成 | 取組は計画通りに実施することができたが、今後は区民ニーズに沿ったおもてなし向上に向けた研修などの定期的な実施により職員一人一人の意識向上を図る。また、各取組において把握し・改善を行ったものについて、庁内の各所に掲示を行うなど発信面の強化を行っていく。 | | | | | |
| | 戦略に対する取組の有効性 | ○:有効 ×:有効でないため見直す -:中間アウトカム未設定(未測定) | | | | | |